

基本計画書

基本計画									
事項		記入欄						備考	
計画の区分		学部・学科の設置							
フリガナ設置者		カッコウホクシン アサヒガクエン 学校法人 浅井学園							
フリガナ大学名称		ホクショウガク 北翔大学 (Hokusho University)							
大学本部の位置		北海道江別市文京台23番地							
大学の目的		北翔大学は、教育基本法及び学校教育法の定めるところにより、本学の教育の理念である「愛と和と英知」を根本にすえ、広く知識を授け、実践を重視した専門の学芸を教育研究するとともに、真理探究の精神と幅広い教養を身につけた創造性豊かな人材を育成し、もって文化の向上、社会の福祉及び地域の発展に寄与することを目的とする。							
新設学部等の目的		生涯スポーツ学部は、スポーツや健康に関する理論や実践について探求し、主体的・活動的・健康的な生き方を実践・支援できる人材を育成し、生涯にわたってスポーツに親しむことができる健康で豊かな生涯スポーツ社会の構築に貢献することを教育目標として、実践力のある人間性豊かな生涯スポーツのスペシャリストを育成します。 生涯スポーツ学部健康福祉学科は、健康・福祉・介護・スポーツに関する幅広い専門的知識の習得と地域貢献等に主体的に取り組む実践をとおして優れた企画力・実践力・連携力の養成をめざし、少子高齢社会における地域づくり、健康づくり、対人援助などを推進するスポーツマインドを持った福祉実践者、福祉マインドを持った健康運動指導者を養成します。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	生涯スポーツ学部 [School of Lifelong Sport]	年	人	年次人	人		年 月 第 年次	北海道江別市文京台 23番地	
	健康福祉学科 [Department of Health and Welfare Science]	4	60	3年次 5	250	学士 (健康福祉学) (介護福祉学)	平成26年4月 第1年次 第3年次		
	計		60	3年次 5	250				
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)		平成26年4月より、北翔大学人間福祉学部の3学科と生涯学習システム学部の2学科を学生募集停止し、教育文化学部（教育学科・芸術学科・心理カウンセリング学科）を届出設置する。 併せて、北翔大学生涯スポーツ学部健康福祉学科を届出設置し、生涯スポーツ学部スポーツ教育学科の3年次編入学定員を20名から10名に変更する。 人間福祉学部（廃止） 地域福祉学科 (△60) (3年次編入学定員) (△5) 医療福祉学科 (△30) (3年次編入学定員) (△5) 福祉心理学科 (△70) (3年次編入学定員) (△5) 生涯学習システム学部（廃止） 芸術メディア学科 (△80) (3年次編入学定員) (△10) 学習コーチング学科 (△60) (3年次編入学定員) (△15) ※平成26年4月学生募集停止 (3年次編入学定員は平成28年4月学生募集停止) 教育文化学部（新設） 教育学科 (120) (3年次編入学定員) (10) 芸術学科 (50) (3年次編入学定員) (5) 心理カウンセリング学科 (50) (3年次編入学定員) (5) 生涯スポーツ学部 健康福祉学科（新設） (50) (3年次編入学定員) (5) スポーツ教育学科 (3年次編入学定員) (20→10)							

教育課程	新設学部等の名称		開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
			講義	演習	実験・実習	計					
	生涯スポーツ学部 健康福祉学科	135科目	52科目	15科目	202科目	124単位					
教員組織の概要	学部等の名称			専任教員等					兼任教員等		
				教授	准教授	講師	助教	計			助手
	新設分	生涯スポーツ学部 健康福祉学科	6人 (6)	5人 (8)	2人 (2)	0人 (0)	13人 (16)	0人 (0)	66人 (23)		
		計	6人 (6)	5人 (8)	2人 (2)	0人 (0)	13人 (16)	0人 (0)	66人 (23)		
	既設分	生涯スポーツ学部 スポーツ教育学科	11人 (15)	11人 (10)	4人 (2)	0人 (0)	26人 (27)	0人 (0)	101人 (32)		平成25年5月届出予定
		教育文化学部 教育学科	12人 (17)	8人 (6)	4人 (0)	0人 (0)	24人 (23)	0人 (0)	67人 (36)		
		教育文化学部 芸術学科	5人 (5)	5人 (5)	0人 (0)	0人 (0)	10人 (10)	0人 (0)	64人 (17)		平成25年5月届出予定
		教育文化学部 心理カウンセリング学科	4人 (5)	3人 (3)	2人 (2)	0人 (0)	9人 (10)	0人 (0)	44人 (15)		平成25年5月届出予定
	分	計	32人 (42)	27人 (24)	10人 (4)	0人 (0)	69人 (70)	0人 (0)	276人 (100)		
	合計			38人 (48)	32人 (32)	12人 (6)	0人 (0)	82人 (86)	0人 (0)		342人 (123)
教員以外の職員の概要	職種			専任		兼任		計			
	事務職員			60人 (60)		0人 (0)		60人 (60)			
	技術職員			4人 (4)		0人 (0)		4人 (4)			
	図書館専門職員			5人 (5)		0人 (0)		5人 (5)			
	その他の職員			－人 (－)		－人 (－)		－人 (－)			
	計			69人 (69)		0人 (0)		69人 (69)			
校地等	区分		専用	共用	共用する他の学校等の専用		計			北翔大学短期大学部と共用	
	校舎敷地		0㎡	82,343.00㎡	0㎡		82,343.00㎡				
	運動場用地		0㎡	41,311.00㎡	0㎡		41,311.00㎡				
	小計		0㎡	123,654.00㎡	0㎡		123,654.00㎡				
	その他		0㎡	0㎡	2,349.59㎡		2,349.59㎡				
	合計		0㎡	123,654.00㎡	2,349.59㎡		126,003.59㎡				
校舎			専用	共用	共用する他の学校等の専用		計			北翔大学短期大学部と共用	
			30,130.72㎡ (30,130.72㎡)	35,908.38㎡ (35,908.38㎡)	970.25㎡ (970.25㎡)		66,062.00㎡ (66,062.00㎡)				
教室等	講義室		演習室	実験実習室	情報処理学習施設		語学学習施設			大学全体 北翔大学短期大学部と共用	
	35室		38室	122室	7室 (補助職員 0人)		3室 (補助職員 0人)				

専任教員研究室			新設学部等の名称			室数					
			生涯スポーツ学部 健康福祉学科			16 室					
図書・設備	新設学部等の名称		図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種		電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	全学での共用分 ・図書 195,832 〔17,785〕冊、 ・学術雑誌 3,106 〔256〕種、 ・電子ジャーナル 6,726〔5,195〕種 ・視聴覚資料 9,468点	
	生涯スポーツ学部 健康福祉学科		1,020〔 0〕 (102〔 0〕)	90〔 0〕 (9〔 0〕)		0〔 0〕 (0〔 0〕)	30 (3)	(0) (0)	0 (0)		
	計		1,020〔 0〕 (102〔 0〕)	90〔 0〕 (9〔 0〕)		0〔 0〕 (0〔 0〕)	30 (3)	(0) (0)	0 (0)		
	図書館		面積 2,299.08 m ²		閲覧座席数 298 席		収 納 可 能 冊 数 200,000 冊				
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要						大学全体 北翔大学短期大 学部と共用	
		2,214.00 m ²		陸上競技場、テニスコート、野球場、多目的グラウンド、 トレーニング室、パルグラウンド							
経費の見積り 及び維持方法 の概要	経費 の見 積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	大学全体 図書購入費には 電子ジャーナル・ データベースなどの 整備費(運用コスト 含む)を含む	
		教員1人当り研究費等		250千円	250千円	250千円	250千円	－	－		
		共同研究費等		2,930千円	2,930千円	2,930千円	2,930千円	－	－		
		図 書 購 入 費	0千円	23,713千円	23,713千円	23,713千円	23,713千円	－	－		
		設 備 購 入 費	0千円	86,370千円	86,370千円	86,370千円	86,370千円	－	－		
	学生1人当り 納付金	第1年次 1,410千円	第2年次 1,100千円	第3年次 1,100千円	第4年次 1,100千円	第5年次 － 千円	第6年次 － 千円				
	学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、手数料収入、資産運用収入等を充当する。							
既設 大学 等 の 状 況	大 学 の 名 称		北翔大学								平成23年度より 入学定員を80名 →60名に変更 平成23年度より 編入学定員を10 名→5名に変更 平成23年度より 入学定員を50名 →30名に変更 平成23年度より 編入学定員を10 名→5名に変更 平成23年度より 入学定員を80名 →70名に変更 平成23年度より 編入学定員を10 名→5名に変更 平成23年度より 入学定員を80名 →60名に変更 平成23年度より 編入学定員を20 名→15名に変更
	学 部 等 の 名 称		修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	定 員 超過率	開設 年度	所 在 地	
	人間福祉学部 地域福祉学科		4	60	3年次 5	270	学士 (社会福祉学) (介護福祉学)	0.60 0.63	平成 9年度	北海道江別市文京 台23番地	
	医療福祉学科		4	30	3年次 5	150	学士 (社会福祉学)	0.37	平成 9年度		
	福祉心理学科		4	70	3年次 5	300	学士 (臨床心理学) (福祉カウ ンセリング学) (養護実践学)	0.69	平成 13年度		
	生涯学習システム学部 芸術メディア学科		4	80	3年次 10	340	学士 (生涯学習学)	0.73 0.65	平成 12年度		
	学習コーチング学科		4	60	3年次 15	290	学士 (生涯学習学)	0.87	平成 18年度		
	生涯スポーツ学部 スポーツ教育学科		4	160	3年次 20	680	学士(スポー ツ教育学)	1.25 1.25	平成 21年度		

既設大学等の状況	人間福祉学研究科						0.85			
	人間福祉学専攻	2	4	—	8	修士 (人間福祉学)	0.62	平成13年度		
	臨床心理学専攻	2	6	—	12	修士 (臨床心理学)	0.99	平成15年度		
	生涯学習学研究科						0.83			
	生涯学習学専攻	2	6	—	12	修士 (生涯学習学)	0.83	平成16年度		
	生涯スポーツ学研究科						2.00			
	生涯スポーツ学専攻	2	6	—	6	修士 (スポーツ科学)	2.00	平成25年度		
	大 学 の 名 称	北翔大学短期大学部								
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	定 員 超過率	開設 年度	所 在 地	
		年	人	年次 人	人		倍			
	ライフデザイン学科	2	80	—	160	短期大学士 (ライフデザイン学)	0.46	平成15年度	北海道江別市文京台23番地	平成24年度より 学科名称変更
	こども学科	2	140	—	280	短期大学士 (こども学)	0.98	平成17年度		
	専攻科	1	60	—	60	該当なし	0.00	昭和42年度		
附属施設の概要		名称：北方圏学術情報センター 所在地：札幌市中央区南1条西22丁目1番1号 開設年月日：平成13年4月1日 規模・概要：鉄筋鉄骨1階建・鉄骨地上9階建				名称：北方圏生涯スポーツ研究センター 所在地：江別市文京台23番地 開設年月日：平成17年4月1日 規模・概要：鉄筋コンクリート地下1階建・地上6階建				

教 育 課 程 等 の 概 要														
(生涯スポーツ学部 健康福祉学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
全学 共通科目	導入科目	基礎教育セミナーⅠ	1前	1			○		6	5	2			
		基礎教育セミナーⅡ	1後	1			○		6	5	2			
	基礎 科目	日本語表現	1前	1		○				1				兼7 オムニバス
		数学入門	1後	1		○			1					兼7 オムニバス
		情報機器操作Ⅰ	1前	2			○							兼1
		情報機器操作Ⅱ	1後	2			○							兼1
		健康体育(実技を含む)	2前		2	○								兼3 ※実技
		英語コミュニケーションⅠ	1前	2			○							兼1
	外国 語科目	英語コミュニケーションⅡ	1後		2		○							兼1
		英語(中級)	2前		2	○								兼3
		英語(上級)	2後		2	○								兼3
		韓国語	2前		2	○								兼2
		中国語	2前		2	○								兼1
		ドイツ語	2前		2	○								兼1
		フランス語	2前		2	○								兼1
		スペイン語	2前		2	○								兼1
	教養 科目	現代生活と政治・経済	2前		2	○								兼2 オムニバス
		現代生活と法律	2前		2	○								兼1
		現代生活と福祉	2前		2	○			1					
		現代生活と芸術	2前		2	○								兼2 オムニバス
		現代生活と教育	2前		2	○								兼1
		現代生活と心と体	2前		2	○				1				
		現代生活と物理	2後		2	○								兼2 オムニバス
		現代生活と宇宙	2後		2	○								兼1
		現代生活と環境科学	2後		2	○								兼1
		北海道の文化	2後		2	○								兼1
		日本国憲法	2後		2	○								兼1
		情報社会及び情報倫理	2後		2	○								兼1
		情報処理(中級)	3前		2		○							兼2
		情報処理(上級)	3後		2		○							兼1
	就業 力養成 科目	キャリアデザインⅠ	1前	1		○								兼1
		キャリアデザインⅡ	1後	2			○			2				
		キャリアデザインⅢ	2前	2			○			2				
		キャリア演習Ⅰ	3前	1			○		1					
		キャリア演習Ⅱ	3後	1			○							兼1 ※講義
		キャリア演習Ⅲ	4前		1		○							兼1
		キャリア演習Ⅳ	4後		1		○							兼1 ※講義
		就業力特別講義Ⅰ	2後	1		○			1					兼7 オムニバス
		就業力特別講義Ⅱ	3前	1		○								兼2 オムニバス
		インターンシップ	2・3後		2			○						兼1
		小計(40科目)	—	19	50	0	—	—	6	5	2	0	0	兼39 —
外国人 留学生 科目	日本語	1前		2		○								兼1
	現代日本の文化	1後		2		○								兼1
	小計(2科目)	—	0	4	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼2 —

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(生涯スポーツ学部 健康福祉学科)																	
科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
発展科目	関心する・健康 科目群に	食生活と健康	1前		2		○									兼1	
		スポーツ施設管理論	4前		2		○									兼1	
		心理学概論	1前		2		○									兼1	
		心理統計法	2前		2		○									兼1	
		生涯発達心理学	1前		2		○									兼1	
		人間関係の心理学	1後		2		○									兼1	
		育児支援の心理学	2前		2		○									兼1	
		福祉心理学	1後		2		○									兼1	
		犯罪心理学	2後		2		○									兼1	
	関社会と生活 科目群に	社会教育概論	3後		2		○									兼1	
		社会教育計画	4前		2		○									兼1	
		社会教育課題研究	4前		2		○									兼1	
		社会教育課題演習	4後		2			○		1							
		社会教育施設論	4前		2		○									兼1	
		青少年学習コーチング論	3前		2		○									兼1	
		リカレント教育論	4前		2		○									兼1	
	関文化と芸術 科目群に	ファッションデザイン概論	1前		2		○									兼2	オムニバース
		インテリアデザイン	1後		2		○									兼1	
		ユニバーサルデザイン	1後		2		○									兼1	
		空間デザイン史	2前		2		○									兼1	
		美術史	2後		2		○									兼1	
		美学	3前		2		○									兼1	
		音楽概論	1後		2		○									兼1	
		音楽鑑賞法	2前		2		○									兼1	
		音楽史	2後		2		○									兼4	
	小計(25科目)		—	0	50	0	—			1	0	0	0	0	兼21	—	
学部 共通科目	生涯スポーツ学	1前	2			○					1					集中	
	生涯学習論	1前		2		○				1							
	生涯学習展開論	3後		2		○									兼1		
	栄養と健康	1後		2		○									兼1		
	健康学	1前	2			○				1							
	健康管理論	2後		2		○									兼1		
	地域支援実習	2通		2				○	1	2					兼2		
	コミュニケーション論	4前		2		○									兼1		
	健康運動指導演習	3後		2			○								兼2		
	体育原理	1後		2		○									兼1		
	スポーツ心理学	1前		2		○									兼1		
	スポーツ社会学	1後		2		○				1							
	スポーツ運動学	1前		2		○									兼1		
	スポーツマネジメント	2前		2		○									兼1		
	スポーツ史	3後		2		○									兼1		
	生理学	1前		2		○									兼1		
	運動生理学	1後		2		○									兼1		
	就業力特別演習Ⅰ	3後		1				○			2				兼5		
	就業力特別演習Ⅱ	4前		1				○		1	2				兼3		
	就業力特別演習Ⅲ	4後		1				○		1	1	1			兼2		
小計(20科目)		—	4	33	0	—			3	5	1	0	0	兼22	—		

教 育 課 程 等 の 概 要														
(生涯スポーツ学部 健康福祉学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
学 科 専 門 科 目	健康福祉学概論Ⅰ	1前	2			○			1	3				オムニバ ^ス
	健康福祉学概論Ⅱ	1後	2			○			1	3				オムニバ ^ス
	スポーツ医学基礎	2前		2		○				1				兼2 オムニバ ^ス
	スポーツ内科学	2後		2		○								兼1
	スポーツ整形外科学	3前		2		○								兼4 オムニバ ^ス
	スポーツ・バイオメカニクス	2前		2		○								兼1
	コーチ学	1後		2		○								兼1
	ジュニアスポーツ論	3後		2		○								兼1
	中高年スポーツ論	3後		2		○								兼1
	障がい者スポーツ論	3後		2		○								兼1
	基礎解剖学	1前		2		○								兼1
	機能解剖学	1後		2		○								兼1
	身体発育・発達論	3前		2		○								兼1
	トレーニング論	1前		2		○								兼1
	トレーニング演習	1後		2				○						兼6 オムニバ ^ス
	レジャー・レクリエーション論	1後		2		○								兼1
	野外・レクリエーション指導論	2後		2		○								兼1
	レクリエーションマネジメント	3後		2		○								兼1
	生涯スポーツ(陸上競技)	1前		1					○					兼3 オムニバ ^ス
	生涯スポーツ(器械運動)	1後		1					○					兼2
	生涯スポーツ(バレーボール)	1後		1					○					兼2
	生涯スポーツ(バスケットボール)	1後		1					○					兼1
	生涯スポーツ(ニュースポーツ)	2後		1					○					兼1 集中
	生涯スポーツ(エアロビック)	2前		1					○					兼1
	生涯スポーツ(障がい者スポーツ)	4前		1					○					兼1
	生涯スポーツ指導演習(エアロビック)	2後		2					○					兼1
	生涯スポーツ指導演習(水泳・水中運動)	3前		2					○					兼1
	健康栄養学	3前		2			○							兼1
	精神保健	3前		2			○				1			
	救急処置	2後		2			○							兼2
	運動処方	3前		2			○			1				
	運動処方演習	4前		2					○		1			兼2 オムニバ ^ス
	体力測定評価	2前		2			○							兼1
	体力測定評価演習	3前		2					○					兼4 オムニバ ^ス
	生活の中の介護福祉	2前		2			○				1			
	生活習慣病概論	2前		2			○							兼1
	介護実践管理論	4前		2			○							兼2 オムニバ ^ス
	医学概論	1前		2			○							兼1
	医学知識	1後		2			○							兼1
	社会学	1前		2			○							兼1
現代社会と福祉Ⅰ	4前		2			○			1					
現代社会と福祉Ⅱ	4後		2			○			1					
社会福祉調査論	1後		2			○							兼1	
ソーシャルワーク概説Ⅰ	2前		2			○							兼1	
ソーシャルワーク概説Ⅱ	2後		2			○							兼1	
ソーシャルワーク論Ⅰ	1後		2			○				1				
ソーシャルワーク論Ⅱ	2前		2			○				1				
ソーシャルワーク論Ⅲ	2後		2			○							兼1	
ソーシャルワーク論Ⅳ	3前		2			○							兼1	
地域福祉論Ⅰ	3前		2			○				1				
地域福祉論Ⅱ	3後		2			○				1				
社会福祉行政・福祉計画論	4前		2			○							兼1	
社会福祉運営管理論	4前		2			○			1					

教 育 課 程 等 の 概 要														
(生涯スポーツ学部 健康福祉学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
学 科 専 門 科 目	社会保障論Ⅰ	3前		2		○				1				
	社会保障論Ⅱ	3後		2		○				1				
	高齢者福祉論Ⅰ	2前		2		○				1				兼1
	高齢者福祉論Ⅱ	2後		2		○				1				兼1
	障害者福祉論	2前		2		○			1					
	児童・家庭福祉論	1後		2		○								兼1
	公的扶助論	2後		2		○								兼1
	医療福祉論	3後		2		○								兼1
	就労支援論	3後		1		○								兼1
	権利擁護と成年後見制度	3後		2		○								兼1
	司法福祉論	3後		1		○								兼1
	相談援助演習Ⅰ	2前		2			○			1				兼2
	相談援助演習Ⅱ	2後		2			○			1				兼2
	相談援助演習Ⅲ	3前		2			○			2				兼1
	相談援助演習Ⅳ	3前		2			○			4				
	相談援助演習Ⅴ	3後		2			○			4				
	相談援助実習指導Ⅰ	2後		2			○			4				
	相談援助実習指導Ⅱ	3通		4			○			4				
	相談援助実習	3通		6				○		4				集中
	高齢社会の街づくり	3後		2		○			1					
	介護福祉と生活文化	3後		2		○			1		1			オムニバス
	リハビリテーション論	3後		2		○								オムニバス
	レクリエーション実技	2前		1				○						兼3
	食生活学	3前		2		○								兼1
	衣生活学	3前		2		○								※演習
	住生活学	3後		2		○			1					※演習
	老年医学	2前		2		○								兼1
	認知症論	2前		2		○					1			
	認知症ケア論	2後		2		○					1			
	障害のある人の理解	3後		2		○								兼1
	生活生理学	1後		2		○								兼1
	高齢者心理学	2前		2		○								兼1
	健康福祉専門職演習Ⅰ	4前		2			○			1	1			
	健康福祉専門職演習Ⅱ	4後		2			○			2				
	健康産業施設実習	4前		2				○						兼1
	福祉実践実習	4前・後		2				○		2				集中
	専門演習Ⅰ	3前	2				○		6	5	2			一部集中/※演習
	専門演習Ⅱ	3後	2				○		6	5	2			
	専門演習Ⅲ	4前	2				○		6	5	2			
	卒業研究	4後		2			○		6	5	2			
	介護概論Ⅰ	2前		2		○				1				
	介護概論Ⅱ	2後		2		○					1			
	生活学概論	2後		2		○								兼2
	介護技術演習Ⅰ	2前		1			○		1					オムニバス
	介護技術演習Ⅱ	2前		2			○			1	1			兼1
	介護技術演習Ⅲ	2後		2			○		1		1			兼1
	介護技術演習Ⅳ	3前		1			○							兼1
	介護技術演習Ⅴ	3後		1			○		1					兼2
	介護過程Ⅰ(基礎)	2前		1			○			1				オムニバス
	介護過程Ⅱ(高齢者)	2後		1			○				1			
	介護過程Ⅲ(身体障害者)	2後		1			○				1			
	介護過程Ⅳ(知的・精神障害者、内部疾患者)	3前		1			○		1					
	介護過程Ⅴ(在宅支援)	3後		1			○				1			

教 育 課 程 等 の 概 要															
(生涯スポーツ学部 健康福祉学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
学科専門科目	介護基礎演習	2前		1				○		1	1	2			一部集中/※実習 集中 集中 兼1 兼1 兼2 兼56
	介護実習指導Ⅰ	2後		1				○		1	1	2			
	介護実習指導Ⅱ	3通		2				○		1	1	2			
	介護実習指導Ⅲ	4前		1				○		1	1	2			
	介護実習Ⅰ	2後		4					○	1	1	2			
	介護実習Ⅱ	3前		6					○	1	1	2			
	医療的ケアⅠ	3前		2			○		1						
	医療的ケアⅡ	3後		2			○								
	医療的ケア演習	4前		1				○				1			
小計(115科目)		—	10	210	0	—			6	5	2	0	0	兼56	—
合計(202科目)		—	33	347	0	—			6	5	2	0	0	兼115	—
学位又は称号		学士（健康福祉学、介護福祉学）			学位又は学科の分野				社会学・社会福祉学関係						
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
【卒業要件】 全学共通科目 必修19単位 選択10単位以上 発展科目 選択 8単位以上 (2つ以上の科目群から修得する) 学部共通科目 必修 4単位 選択 6単位以上 学科専門科目 必修10単位 選択38単位以上 その他全ての選択科目から選択29単位以上、合計124単位以上 「全学共通科目」の内訳は以下のとおりとする。 導入科目 必修 2科目 2単位 基礎科目 必修 5科目 8単位 外国語科目 1科目 2単位以上選択 教養科目 4科目 8単位以上選択 就業力養成科目 必修 7科目 9単位 【履修登録の上限】 履修科目の上限 年間48単位 但し、諸資格を取得する場合は、年間48単位を超えて履修登録することを認める。								1 学年の学期区分				2 学期			
								1 学期の授業期間				1 5 週			
								1 時限の授業時間				9 0 分			

別記様式第2号(その2の1)

(用紙 日本工業規格A4縦型)

教 育 課 程 等 の 概 要														
(人間福祉学部 地域福祉学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
全学 共通 科目	基礎教育セミナーⅠ	1前	2			○			2	2	1			兼1 ※実技 兼1 兼1 兼1 兼1 兼2 兼3 オムニバス 兼1 オムニバス 兼2 オムニバス 兼3 オムニバス 兼2 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼20
	基礎教育セミナーⅡ	1後	2			○			2	2	1			
	健康体育(含実技)	2後		2		○								
	英語コミュニケーションⅠ	1前	2				○							
	英語コミュニケーションⅡ	1後	2				○							
	情報機器操作Ⅰ	1前	2				○							
	情報機器操作Ⅱ	1後	2				○							
	総合科学A	1・2前・後		2		○			1					
	総合科学B	1・2前・後		2		○								
	総合科学C	1・2前・後		2		○								
	総合科学D	1・2前・後		2		○								
	韓国語と文化Ⅰ	1・2前・後		2		○								
	中国語と文化Ⅰ	1・2前		2		○								
	ドイツ語と文化Ⅰ	1・2前		2		○								
	英語と文化	1・2前・後		2		○								
	韓国語と文化Ⅱ	1・2後		2		○								
	中国語と文化Ⅱ	1・2後		2		○								
	ドイツ語と文化Ⅱ	1・2後		2		○								
	日本国憲法	1前		2		○								
	キャリアデザイン	1前		2		○								
	小計(20科目)	—	12	28	0	—			3	2	1			
学部 共通 科目	医学概論Ⅰ	1前		2		○								兼1
	医学概論Ⅱ	1後		2		○								兼1
	心理学概論	1前		2		○								兼1
	社会学	1前	2			○								兼1
	社会保障論Ⅰ	2前		2		○								兼1
	社会保障論Ⅱ	2後		2		○								兼1
	社会福祉調査論	2後		2		○								兼1
	地域福祉論Ⅰ	2前		2		○			1					
	地域福祉論Ⅱ	2後		2		○			1					
	社会福祉行政・福祉計画論	3後		2		○								兼1
	権利擁護と成年後見制度	2後		2		○								兼1
	社会福祉運営管理論	3前		2		○								兼1
	現代社会と福祉Ⅰ	2後	2			○								兼1
	現代社会と福祉Ⅱ	3前		2		○								兼1
	高齢者福祉論Ⅰ	1前		2		○			1					兼1
	高齢者福祉論Ⅱ	1後		2		○			1					兼1
	障害者福祉論Ⅰ	1前		2		○			1					
	障害者福祉論Ⅱ	1後		2		○			1					
	児童・家庭福祉論Ⅰ	1前		2		○								兼1
	児童・家庭福祉論Ⅱ	1後		2		○								兼1
	公的扶助論	2後		2		○								兼1
	就労支援論	3前		1		○								兼1
	司法福祉論	3前		1		○								兼1
	ソーシャルワーク概説Ⅰ	1前	2			○			1					
	ソーシャルワーク概説Ⅱ	1後		2		○								兼1
	医療福祉論	2前		2		○								兼1
	リハビリテーション論	2前		2		○								兼3 オムニバス
	家族社会学	1後		2		○								兼1

教 育 課 程 等 の 概 要														
(人間福祉学部 地域福祉学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
学部 共通 科目	生活福祉工学	3前		2		○								兼1
	生活学概論	1後・2前		2		○								兼3 オムニバス
	保育学	2前		2		○								兼1
	障害者心理学	2前		2		○								兼1
	高齢社会の街づくり	3後		2		○			1					
	インテリアデザイン	1後		2		○			1					
	バリアフリーデザイン論	4前		2		○			1					
	生活環境論	2前		2		○			1					
	住環境計画論	3前		2		○								兼1
	住環境計画演習	3前		2			○		1					
	集住計画論	3後		2		○								兼1
	集住計画演習	3後		2			○		1					
	地域施設論	3後		2		○								兼1
	インテリア設計Ⅰ	2前		4		○								兼1
	インテリア設計Ⅱ	2後		4		○								兼1
	CAD設計(基礎)	4前		4		○								兼1
	高齢者心理学	2前		2		○								兼1
	衣生活学	2前		2		○								兼1 ※演習
	家庭経営学	3前		2		○								兼1
	住生活学	3前		2		○			1					兼2 ※演習/オムニバス
	調理学	2前		2		○								兼1
	食生活学	2前		2		○								兼1 ※演習
	食物学	1前		2		○								兼1
	生活学実習Ⅰ	2前		2				○						兼1
	生活学実習Ⅱ	2前		2				○						兼2 オムニバス
	生活学実習Ⅲ	2前		1				○	1					
	基礎統計学	1後		2		○								兼1
	精神保健	3前		2		○								兼1
	インターンシップ	2・3後		2				○						兼1
	社会教育計画	4通		4		○								兼1
	社会教育課題研究	4通		4		○								兼1
	社会教育論	4前		4		○								兼1
	社会教育施設論	4前		2		○								兼1
	公衆衛生学	2後		2		○								兼1
	ジェンダースタディーズ	3前		2		○								兼1
	小計(63科目)	—	6	129	0	—			1	3				兼40 —
地域福祉学科 専門科目	コース 共通 科目	専門演習Ⅰ		4			○			4	1			
		専門演習Ⅱ		4			○		2	5	2			
		卒業研究		4			○		2	5	2			
		卒業論文			4		○		2	5	2			
		レクリエーション活動援助法		2	2		○							兼1
		ソーシャルワーク論Ⅰ		1	2		○							兼1
		ソーシャルワーク論Ⅱ		2	2		○			1				
		ソーシャルワーク論Ⅲ		2	2		○							兼1
		ソーシャルワーク論Ⅳ		3	2		○							兼1
		相談援助演習Ⅰ		1	2			○		2				兼2
		相談援助演習Ⅱ		2	2			○		2				兼2
		相談援助演習Ⅲ		2	2			○		2				兼1
		相談援助演習Ⅳ		3	2			○		1				兼1
		相談援助演習Ⅴ		3	2			○		1				兼1
		相談援助実習指導Ⅰ		2	2			○		2				兼1
		相談援助実習指導Ⅱ		3	4			○		1				兼1
		相談援助実習		3	6			○		1				兼1
		介護概論Ⅰ		1	2		○			1	1			
		介護概論Ⅱ		1	2		○		1	1	2			オムニバス

教 育 課 程 等 の 概 要														
(人間福祉学部 地域福祉学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
地域福祉学科専門科目	コース 共通科目	認知症論		2		○					1			兼1 兼1 オムニバース 兼1 オムニバース
		認知症ケア論		2		○					1			
		老年医学		2		○								
		障害のある人の理解		2		○			1					
		生活生理学		2		○								
		介護福祉と生活文化		2		○			1		1			
		小計(25科目)	—	12	52	0	—		2	5	2			兼8 —
	社会福祉 コース 専門科目	社会福祉基礎実習	4					○		4				※演習 兼1 兼1 兼1 ※演習/オムニバース
		社会福祉入門実習		2				○		2				
		社会福祉専門実習		4				○		2				
		ボランティア・NPO論		2		○								
		当事者運動論		2		○								
		地域リハビリテーション論		2		○								
		社会福祉特別講義Ⅰ		2		○				1				
		社会福祉特別講義Ⅱ		2		○				1				
		介護援助技術論		2		○					2			
		小計(9科目)	—	4	18	0	—			4	2			兼3 —
	介護福祉 コース 専門科目	介護技術演習Ⅰ	1				○		1					兼1 兼1 兼2 オムニバース 兼1
		介護技術演習Ⅱ		2			○			1	1			
		介護技術演習Ⅲ		2			○		1		1			
		介護技術演習Ⅳ	1				○		1					
		介護技術演習Ⅴ		1			○			1				
		衣生活学演習		2			○							
		介護過程Ⅰ	1				○			1				
		介護過程Ⅱ		1			○			1				
		介護過程Ⅲ		1			○				1			
		介護過程Ⅳ		1			○		1					
		介護過程Ⅴ		1			○				1			
		介護基礎演習	1				○		1	1	2			兼1 兼1 兼2 オムニバース 兼1 兼1 兼2 オムニバース
		介護実習指導Ⅰ		1			○		1	1	2			
		介護実習指導Ⅱ	2後～3前通	2			○		1	1	2			
		介護実習指導Ⅲ	4前	1			○		1	1	2			
		介護実習Ⅰ	2前	4				○	1	1	2			
		介護実習Ⅱ	2後	6				○	1	1	2			
		医療的ケアⅠ	2後～3前通	2		○			1					
		医療的ケアⅡ	3後	2		○					1			
		医療的ケア演習	4前	1			○				1			
		介護実践管理論	4前	2		○					1			
		小計(21科目)	—	4	32	0	—		1	1	2			兼7 —
		小計(55科目)	—	20	102	0	—		2	5	2			兼17 —
外国人留 学生科目	日本語	1前		2		○								兼1
	日本の歴史と文化	1後		2		○								兼1
	小計(2科目)	—	0	4	0	—								兼2 —
合計(140科目)		—	38	263	0	—			3	5	2			兼70 —

(用紙 日本工業規格 A 4 縦型)

教 育 課 程 等 の 概 要			
(人間福祉学部 地域福祉学科)			
学位又は称号	学士 (社会福祉学) (介護福祉学)	学位又は学科の分野	社会学・社会福祉学関係
卒 業 要 件 及 び 履 修 方 法		授業期間等	
【卒業要件】 ◆社会福祉コース 全学共通科目 必修12単位 選択 4単位以上 学部共通科目 必修 6単位 選択40単位以上 学科専門科目 コース共通科目 必修12単位 選択 6単位以上 コース専門科目 必修 4単位 選択 4単位以上 その他全ての選択科目から 選択36単位以上、合計124単位以上 ◆介護福祉コース 全学共通科目 必修12単位 選択 4単位以上 学部共通科目 必修 6単位 選択34単位以上 学科専門科目 コース共通科目 必修16単位 選択 8単位以上 コース専門科目 必修 4単位 選択 2単位以上 その他全ての選択科目から 選択38単位以上、合計124単位以上 コース共通科目については、介護福祉コースを選択して履修する 学生は「レクリエーション活動援助法」「ソーシャルワーク論Ⅰ」 を修得しなければならない。 【履修登録の上限】 履修科目の上限 1・2年次 年間50単位、3・4年次 年間48単位 但し、教育職員免許状及び諸資格を取得する場合は、年間上限単位を超えて履修登録することを認める。		1 学年の学期区分	2 学期
		1 学期の授業期間	1 5 週
		1 時限の授業時間	9 0 分

別記様式第2号(その2の1)

(用紙 日本工業規格A4縦型)

教 育 課 程 等 の 概 要														
(人間福祉学部 医療福祉学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
全学 共通 科目	基礎教育セミナーⅠ	1前	2			○			2	2	2			オムニバス
	基礎教育セミナーⅡ	1後	2			○			2	2	2			オムニバス
	健康体育(含実技)	2後		2		○								兼1 ※実技
	英語コミュニケーションⅠ	1前	2				○							兼1
	英語コミュニケーションⅡ	1後	2				○							兼1
	情報機器操作Ⅰ	1前	2				○							兼1
	情報機器操作Ⅱ	1後	2				○							兼1
	総合科学A	1・2前・後		2		○								兼3 オムニバス
	総合科学B	1・2前・後		2		○								兼2 オムニバス
	総合科学C	1・2前・後		2		○								兼2 オムニバス
	総合科学D	1・2前・後		2		○								兼3 オムニバス
	韓国語と文化Ⅰ	1・2前・後		2		○								兼2
	中国語と文化Ⅰ	1・2前		2		○								兼1
	ドイツ語と文化Ⅰ	1・2前		2		○								兼1
	英語と文化	1・2前・後		2		○								兼1
	韓国語と文化Ⅱ	1・2後		2		○								兼1
	中国語と文化Ⅱ	1・2後		2		○								兼1
	ドイツ語と文化Ⅱ	1・2後		2		○								兼1
	日本国憲法	1前		2		○								兼1
	キャリアデザイン	1前		2		○								兼1
	小計(20科目)	—	12	28	0	—			2	2	2			兼21 —
学部 共通 科目	医学概論Ⅰ	1前		2		○			1					
	医学概論Ⅱ	1後		2		○			1					
	心理学概論	1前		2		○								兼1
	社会学	1前	2			○								兼1
	社会保障論Ⅰ	2前		2		○				1				
	社会保障論Ⅱ	2後		2		○				1				
	社会福祉調査論	2後		2		○								兼1
	地域福祉論Ⅰ	2前		2		○								兼1
	地域福祉論Ⅱ	2後		2		○								兼1
	社会福祉行政・福祉計画論	3後		2		○								兼1
	権利擁護と成年後見制度	2後		2		○								兼1
	社会福祉運営管理論	3前		2		○			1					
	現代社会と福祉Ⅰ	2後	2			○			1					
	現代社会と福祉Ⅱ	3前		2		○			1					
	高齢者福祉論Ⅰ	1前		2		○								兼1
	高齢者福祉論Ⅱ	1後		2		○								兼1
	障害者福祉論Ⅰ	1前		2		○								兼1
	障害者福祉論Ⅱ	1後		2		○								兼1
	児童・家庭福祉論Ⅰ	1前		2		○								兼1
	児童・家庭福祉論Ⅱ	1後		2		○								兼1
	公的扶助論	2後		2		○								兼1
	就労支援論	3前		1		○				1				
	司法福祉論	3前		1		○								兼1
	ソーシャルワーク概説Ⅰ	1前	2			○								兼1
	ソーシャルワーク概説Ⅱ	1後		2		○								兼1
	医療福祉論	2前		2		○				1				
	リハビリテーション論	2前		2		○								兼3 オムニバス
	家族社会学	1後		2		○								兼1

教 育 課 程 等 の 概 要														
(人間福祉学部 医療福祉学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
学部 共通 科目	生活福祉工学	3前		2		○								兼1
	生活学概論	2前		2		○								兼1
	保育学	2前		2		○								兼1
	障害者心理学	2前		2		○								兼1
	高齢社会の街づくり	3後		2		○								兼1
	インテリアデザイン	1後		2		○								兼1
	バリアフリーデザイン論	4前		2		○								兼1
	生活環境論	2前		2		○								兼1
	住環境計画論	3前		2		○								兼1
	住環境計画演習	3前		2			○							兼1
	集住計画論	3後		2		○								兼1
	集住計画演習	3後		2			○							兼1
	地域施設論	3後		2		○								兼1
	インテリア設計Ⅰ	2前		4		○								兼1
	インテリア設計Ⅱ	2後		4		○								兼1
	CAD設計(基礎)	4前		4		○								兼1
	高齢者心理学	2前		2		○								兼1
	衣生活学	2前		2		○								兼1 ※演習
	家庭経営学	3前		2		○								兼1
	住生活学	3前		2		○								兼1 ※演習
	調理学	2前		2		○								兼1
	食生活学	2前		2		○								兼1 ※演習
	食物学	1前		2		○								兼1
	生活学実習Ⅰ	2前		2				○						兼1
	生活学実習Ⅱ	2前		2				○						兼2
	生活学実習Ⅲ	2前		1				○						兼1
	基礎統計学	1後		2		○								兼1
	精神保健	3前		2		○			1					
	インターンシップ	2・3後		2				○						兼1
	社会教育計画	4通		4		○								兼1
	社会教育課題研究	4通		4		○								兼1
	社会教育論	4前		4		○								兼1
	社会教育施設論	4前		2		○								兼1
	公衆衛生学	2後		2		○								兼1
	ジェンダースタディーズ	3前		2		○								兼1
	小計(63科目)	—	6	129	0	—			3	1	2			兼35 —
医療福祉学科 専門科目	コース 共通 科目	基礎演習	1通	4			○		2	2	2			
		ソーシャルワーク論Ⅰ	1後	2		○				1				
		ソーシャルワーク論Ⅱ	2前	2		○								兼1
		ソーシャルワーク論Ⅲ	2後	2		○								兼1
		ソーシャルワーク論Ⅳ	3前	2		○					1			
		相談援助演習Ⅰ	1後	2			○			1				
		相談援助演習Ⅱ	2前	2			○			1				
		相談援助演習Ⅲ	2後	2			○		1					
		相談援助演習Ⅳ	3前	2			○							兼1
		相談援助演習Ⅴ	3後	2			○							兼1
		相談援助実習指導Ⅰ	2前	2			○							兼1
		相談援助実習指導Ⅱ	3通	4			○		1					兼1
		相談援助実習	3通	6				○	1					兼1
		精神保健福祉学Ⅰ	2前	2		○			1					
		精神保健福祉学Ⅱ	2後	2		○				1				
		医療ソーシャルワーク論	2後	2		○			1					
		精神医学	2通	4		○			1					
		精神保健Ⅱ	3後	2		○					1			

教 育 課 程 等 の 概 要																
(人間福祉学部 医療福祉学科)																
科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
医療福祉学科専門科目	コース共通科目	スーパービジョン論	4前		2		○				1					
		スーパービジョン演習	4後		2			○			1					
		チームアプローチ論	4前		2		○					1				
		専門演習Ⅰ	2通	4				○		2	2	2				
		専門演習Ⅱ	3通	4				○		2	2	2				
		卒業研究	4通	4				○		2	2	2				
		卒業論文	4通		4			○		2	2	2				
		小計(25科目)	—	18	50	0	—			3	2	2			兼4	—
	コース専門科目	医療ソーシャルワーク実践論	3前		2		○						1			
		医療福祉情報システム論	3後		2		○				1					
		医療福祉実習	3後～4前通		2						1	1	1			
		医療福祉実習指導	3後～4前通		2			○				1	1			
		小計(4科目)	—	0	8	0	—			1	1	1			—	
		精神保健福祉学Ⅲ	4後		2		○			1		1				オムニバス
		精神保健福祉援助実習指導	3後～4後通		3				○		1		1			
		精神保健福祉援助技術総論	3前		2		○			1		1				オムニバス
		精神保健福祉援助技術各論	3後		4		○			1						
		精神保健福祉援助演習Ⅰ	4前		2			○		1					兼1	
		精神保健福祉援助演習Ⅱ	4通		4			○		1		1			兼1	
		精神保健福祉援助実習	3後～4後通		4				○	1		1				
		精神科リハビリテーション	3前		4		○					1				
		小計(8科目)	—	0	25	0	—			1		1			兼1	—
		小計(37科目)	—	18	83	0	—			3	2	2			兼5	—
外国人留学生科目	日本語	1前		2		○									兼1	
	日本の歴史と文化	1後		2		○									兼1	
	小計(2科目)	—	0	4	0	—								兼2	—	
合計(122科目)			—	36	244	0	—			4	2	2			兼56	—
学位又は称号		学士 (社会福祉学)			学位又は学科の分野				社会学・社会福祉学関係							
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
【卒業要件】 ◆医療福祉コース 全学共通科目 必修12単位 選択 4単位以上 学部共通科目 必修 6単位 選択40単位以上 学科専門科目 コース共通科目 必修18単位 選択 4単位以上 コース専門科目 選択 2単位以上 その他全ての選択科目から 選択38単位以上、合計124単位以上 ◆精神保健福祉コース 全学共通科目 必修12単位 選択 4単位以上 学部共通科目 必修 6単位 選択40単位以上 学科専門科目 コース共通科目 必修18単位 選択 4単位以上 コース専門科目 選択 4単位以上 その他全ての選択科目から 選択36単位以上、合計124単位以上 【履修登録の上限】 履修科目の上限 1・2年次 年間50単位、3・4年次 年間48単位 但し、諸資格を取得する場合は、年間上限単位を超えて履修登録することを認める。								1 学年の学期区分				2 学期				
								1 学期の授業期間				1 5 週				
								1 時限の授業時間				9 0 分				

別記様式第2号(その2の1)

(用紙 日本工業規格A4縦型)

教 育 課 程 等 の 概 要														
(生涯スポーツ学部 スポーツ教育学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
全学 共通 科目	基礎教育セミナーⅠ	1前	2			○			17	10	2			兼2 ※実技/オムニハース
	基礎教育セミナーⅡ	1後	2			○			17	10	2			
	健康体育(含実技)	2前		2		○			2	2				兼1
	英語コミュニケーションⅠ	1前	2				○							兼1
	英語コミュニケーションⅡ	1後	2				○							兼1
	情報機器操作Ⅰ	1前	2				○							兼1
	情報機器操作Ⅱ	1後	2				○							兼1
	総合科学A	1・2前・後		2		○								兼3 オムニハース
	総合科学B	1・2前・後		2		○			1					兼1 オムニハース
	総合科学C	1・2前・後		2		○								兼2 オムニハース
	総合科学D	1・2前・後		2		○			1					兼2 オムニハース
	韓国語と文化Ⅰ	1・2前・後		2		○								兼2
	中国語と文化Ⅰ	1・2前		2		○								兼1
	ドイツ語と文化Ⅰ	1・2前		2		○								兼1
	英語と文化	1・2前・後		2		○								兼1
	韓国語と文化Ⅱ	1・2後		2		○								兼1
	中国語と文化Ⅱ	1・2後		2		○								兼1
	ドイツ語と文化Ⅱ	1・2後		2		○								兼1
	日本国憲法	2前		2		○								兼1
	キャリアデザイン	1前		2		○								兼1
	小計(20科目)	—	12	28	0	—			17	10	2			兼18 —
学部 基礎 科目	生涯学習論	1前	2			○			1					兼1
	生涯学習展開論	3後		2		○			1					
	生涯スポーツ学	1前	2			○			1					
	健康学	1前	2			○			1					
	精神保健	1後		2		○				1				
	健康管理論	2後		2		○			1					
	身体発育・発達論	3後		2		○			1					
	社会教育概論	3後		2		○			1					
	食生活論	2後		2		○			1					
	食物学	1後		2		○			1					
	フード・コーディネーター演習	4前		2			○		1					
	北海道学	4後		2		○			1					
	政治と地域社会	4前		2		○								
	経済と地域社会	4後		2		○			1					
	経営と現代社会	3後		2		○			1					
	福祉と現代社会	4前		2		○								
	コミュニケーション論	4前		2		○			1					
	レジャー・レクリエーション論	1後		2		○			1					
	基礎統計学	2前		2		○								
	統計処理演習	3後		2			○							
	インターンシップ	2・3後		2				○						
	小計(21科目)	—	6	36	0	—			9	1				兼4 —
ス ポ ー ツ 教 育 学 科 専 門 科 目	基礎解剖学	1前		2		○								兼1
	機能解剖学	1後		2		○				1				兼1 兼3
	生理学	1前		2		○					1			
	運動生理学	2後		2		○			1					
	体力測定評価	2前		2		○								
	体力測定評価演習	3前		2			○			1				

教 育 課 程 等 の 概 要														
(生涯スポーツ学部 スポーツ教育学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
ス ポ ー ツ 教 育 学 科 専 門 科 目	運動処方	3前		2		○			1					
	トレーニング論	2前		2		○				1				
	トレーニング演習	3後		2			○			2				兼4
	健康運動指導演習Ⅰ	3後		2			○			1				
	医学概論	2前		2		○			1					
	スポーツ医学基礎	2前		2		○				2	1			オムニバス
	救急処置	2後		2		○			1	1				オムニバス
	運動障害と予防	3前		2		○								兼4
	衛生学及び公衆衛生学	3前		2		○								兼1
	スポーツ医学	3後		2		○			1					
	学校保健	3後		2		○				1				
	障がい者スポーツ論	3後		2		○				1				
	栄養と健康	2後	2			○			1					
	スポーツ栄養学	3前		2		○			1					兼1
	野外教育実習	2前		2				○	1	2				オムニバス
	レクリエーション実技	2前		1				○	1	1				兼1
	野外教育論	2前	2			○			1					
	雪上活動実習	2後		1				○		2				
	野外・レクリエーション指導論	2後		2		○				1				
	スポーツマネジメント	1前		2		○				1				
	スポーツ社会学	1後		2		○				1				
	施設管理論	4前		2		○			1					
	スポーツ建築史	3後		2		○			1					
	地域支援実習	2前		2				○	1	2				
	スポーツ教育学	1後	2			○			1					
	スポーツ心理学	1前		2		○								兼1
	生涯スポーツ(水泳・水中運動)	1前		1				○		1				兼4
	生涯スポーツ(陸上競技)	1前		1				○		1				兼4
	生涯スポーツ(バドミントン)	1前		1				○	1					兼1
	生涯スポーツ(野球・ソフトボール)	1前		1				○		1				
	生涯スポーツ(器械運動)	1後		1				○			1			兼1
	生涯スポーツ(バレーボール)	1後		1				○		1				兼2
	生涯スポーツ(冬季スポーツ)	1後		1				○	2					兼1
	生涯スポーツ(バスケットボール)	1後		1				○						兼2
	生涯スポーツ指導演習(サッカー)	3前		2			○							兼2
	生涯スポーツ(エアロビック)	2前		1				○	1					
	生涯スポーツ(テニス)	2前		1				○	1					兼1
	生涯スポーツ指導演習(体づくり運動)	2後		2			○		1					兼1
	生涯スポーツ指導演習(ダンス)	3前		2			○		1					兼1
	生涯スポーツ指導演習(武道)	3前		2			○							兼2
	スポーツ・バイオメカニクス	2前		2		○				1				
	スポーツ運動学	1前		2		○					1			
	体育原理	1後		2		○								兼1
	生涯スポーツ(障がい者スポーツ)	4前		1				○		1				
	生涯スポーツ指導演習(陸上競技)	2前		2			○			1				兼2
	生涯スポーツ指導演習(バスケットボール)	3前		2			○							兼2
	生涯スポーツ指導演習(バレーボール)	3後		2			○			1				兼1
	生涯スポーツ指導演習(器械運動)	2後		2			○				1			兼1
	生涯スポーツ指導演習(エアロビック)	2後		2			○		1					
	生涯スポーツ指導演習(水泳・水中運動)	4前		2			○			1				
	スポーツ情報処理	2後		2			○			1				兼1
	専門演習Ⅰ	3前	2				○		17	10	2			兼1
	専門演習Ⅱ	3後	2				○		17	10	2			兼1
	卒業研究	4通		4			○		17	10	2			兼1
	小計(60科目)	—	10	99	0	—			17	10	2			兼39 —

教 育 課 程 等 の 概 要																		
(生涯スポーツ学部 スポーツ教育学科)																		
科目 区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
					必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
スポーツ教育学科専門科目	健康 ブ ラ ン ジ ン グ コ ー ス	スポーツ老年学	3前		2		○				1					オムニバス		
		中高年スポーツ論	3後	2			○				1							
		運動処方演習	4前		2				○		1	2					オムニバス	
		健康産業施設実習	4前		2						1							
		健康運動指導演習Ⅱ	4後		2				○		1							
		レクリエーションマネジメント	3後	2			○				1							
		野外教育指導演習	3前		2				○		1	1						
		スポーツマーケティング	3後		2			○			1							
		コミュニティスポーツ論	4前	2			○											
		小計(9科目)	—	6	12	0	—			3	4					兼1	—	
	ス ポ ー ツ 教 育 コ ー ス	メンタルトレーニング演習	4前		2			○									兼1	
		コーチ学	3後	2				○			1							
		運動方法演習	3後	2					○								兼1 兼1	
		スポーツ史	3後		2			○										
		ジュニアスポーツ論	4前	2				○										
		スポーツ教育演習A	3後		2				○		1							
		スポーツ教育演習B	4前		2				○		1							
		学校教育研究A	3後		2				○		1					兼1	オムニバス	
		学校教育研究B	4前		2				○		1							
		小計(9科目)	—	6	12	0	—			3	1						兼4	—
	ス ポ ー ツ ト レ ー ナ ー コ ー ス	マッサージとテーピング法	3前		2				○			1	1				オムニバス	
		スポーツ解剖学	2前	2				○				1						
		臨床スポーツ医学	3後	2				○									兼4	オムニバス/集中
		スポーツ外傷・障害の評価概論	2後		2			○			1	1						
		スポーツ外傷・障害の評価各論	3前		2			○			1	1				オムニバス		
		スポーツ外傷・障害の評価演習	4前		2				○		1	1				オムニバス		
		コンディショニング理論	3前		2			○			1	1				兼2	オムニバス/集中	
		コンディショニング演習	3後		2				○				1					
		アスレティックトレーニング概論	2前	2				○			1					兼1		
		アスレティックリハビリテーション理論	2後		2			○			1							
		アスレティックリハビリテーション演習Ⅰ	3前		2					○						兼1 兼1	集中	
		アスレティックリハビリテーション演習Ⅱ	3後		2					○								
		テーピング演習	4前		2					○		1				兼2	集中	
		アスレティック指導実習A	4前		2						1	1				兼2	集中	
		アスレティック指導実習B	4後		2					○		1	1			兼2	集中	
		小計(15科目)	—	6	24	0	—				1	1					兼6	—
		小計(93科目)	—	28	147	0	—			17	10	2					兼45	—
外国人留 学生科目	日本語	1前		2		○										兼1		
	日本の歴史と文化	1後		2		○										兼1		
	小計(2科目)	—	0	4	0	—										兼2		—
合計(136科目)			—	46	215	0	—			17	10	2				兼61	—	
学位又は称号		学士（スポーツ教育学）			学位又は学科の分野			教育学・保育学関係、体育関係										
卒 業 要 件 及 び 履 修 方 法								授業期間等										
【卒業要件】 全学共通科目 必修12単位 選択 4単位以上 学部基礎科目 必修 6単位 選択18単位以上 学科専門科目 必修16単位 選択24単位以上 その他全ての選択科目から 選択44単位以上、合計124単位以上 【履修登録の上限】 履修科目の上限 年間48単位 但し、教育職員免許状及び諸資格を取得する場合は、年間上限単位を超えて履修登録することを認める。								1 学年の学期区分					2 学期					
								1 学期の授業期間					1 5 週					
								1 時限の授業時間					9 0 分					

授 業 科 目 の 概 要				
(生涯スポーツ学部健康福祉学科)				
区 科 分 目		授業科目の名称	講義等の内容	備考
	導 入 科 目	基礎教育セミナーⅠ	大学で「学生」として「学ぶ」ということを理解する。専門的学習の場において、読み書き調べることに関する基礎能力の習得が重要となる。そのため、情報検索、ノートテイキング、リーディング、ライティングの各種能力を向上させる。さらには、情報を整理しまとめ伝えることができる力を獲得する。加えて学生生活全般にわたっての心の健康（メンタルヘルス）について学ぶ。大学で学ぶということは学長、メンタルヘルスはカウンセラーが担当し、他は学科専任教員全員で担当する。	
		基礎教育セミナーⅡ	基礎教育セミナーⅠで習得した大学で学ぶために必要不可欠な知識、技術、情報をさらに自分のものとして身につけていくために、多分野にわたる学びを深める。現代社会における様々なトピックスを題材にして、レジュメの作成やディスカッションを行いながら、社会に関わるためのコミュニケーション・スキルの向上をめざす。自分の将来への意識を確かなものにしながら、専門の学びへの準備を整えていく。自ら調べ、整理し、まとめ、伝えるといった能力をスキルアップさせる。そして、大学生活に必要なマナーや態度を身につける。学科専任教員全員で担当する。	
全 学 共 通 科 目	基 礎 科 目	日本語表現	日本語による表現能力の向上と、基本的知識の修得を目的とする。その表記方法（文字・語彙・文法・文体・仮名遣い・送り仮名・文章表現に際して用いる符号類等）を学習し、文章の種類・形態と文章を書くときの要領や修辞法について学習する。伝えることの大切さを意識すると同時に、日本語の各分野における能力を向上させることを目的としている。各自が持つ日本語表現能力を向上させ、効果的で円滑なコミュニケーションを図ることができるよう、基礎的な力をつけることを目的としている。 8回の講義内容は以下の通りである。 ○話し言葉と書き言葉：山本（麻） ○漢字（成り立ち、同音意義語等）：福田 ○四字熟語、慣用句など：小坂 ○二語の関係：村松 ○敬語：小杉 ○文章をつくる：石原 ○文と文の関係（文の並べ替え、文法）：小原 ○情報を読み取る：前川	オムニバス
		数学入門	私たちが便利で快適な生活を送ることができるのは、ベースに数学がある。普段、数学の存在を気にすることなく、生活をおくることは可能である。しかし、いざ世の中の仕組みを知りたいと思うと数学が得意とする論理的思考力が必要になる。本学では、生活における数学という切り口で身近にある数学を学び、各専門分野に必要な、ものを考えるための基礎力を身に付けることを目的としている。2年後期に開講される（履修する）就業力特別講義Ⅰに向けた基礎力を培うことをも目的としている。 8回の講義内容は、以下の通りである。 ○携帯端末と数（数の仕組み）：松澤 ○点と線と面（図形の基本）：佐藤（克） ○速さと時間：菊池 ○美と比率（黄金比等）：水野 ○行き先と道順（樹木図等）：松村 ○借りたお金はいくら返せばいいの？（金利等）：澤田 ○集合：西村 ○資料の数値化（統計の基礎、そもそもなぜ数にするのか？：佐々木（雅）	オムニバス
		情報機器操作Ⅰ	コンピュータハードウェアの基本と情報処理の基本を理解するとともに、コンピュータを活用して、データ管理、ネットワーク処理等を行う。インターネットの利用を通して、情報社会における情報モラルの必要性や情報発信に対する責任等について考える態度を養う。パソコンの日本語文書処理、プレゼンテーション、表計算のソフトウェアを使い、日本語文書処理の基本とデータ処理の基本、プレゼンテーション用資料作成の基本的な知識と技能を習得し、学習や生活の場面で活用できる情報活用能力の育成をねらいとしている。	
		情報機器操作Ⅱ	情報処理の基本を踏まえて、コンピュータを用い、実際にアプリケーションソフトを使って、情報処理におけるコンピュータの基本的・応用的な活用と初歩的な画像処理の方法を学ぶ。また、文書の作成、データの活用、プレゼンテーション等の活用について知識を深め、情報モラルについても考察を深める。いずれの活用においても、基本的な知識・技能について確実でより高い習得を行なうとともに、学習や生活の場面で活用できる情報活用能力を育成することを目指す。	
		健康体育(実技を含む)	本授業では、教職をめざすものとしての運動、スポーツ、健康に関する基本的な理論や実技を学習し、運動・スポーツが健康・体力の維持増進に果たす役割や意義を理解し、生涯にわたりスポーツ活動を生活の一部として取り入れることが目的である。	※実技

授 業 科 目 の 概 要				
(生涯スポーツ学部健康福祉学科)				
区 科 分 目	授業科目の名称		講義等の内容	備考
全 学 共 通 科 目	基 礎 科 目	英語コミュニケーションⅠ	本講座では、コミュニケーションで使われる基礎的な文法を確実に身に付け、語彙力を伸ばし、自信を持って流暢に会話ができるよう、いろいろな場面を想定し、リスニング、ペアワーク、反復練習を行います。受講するにあたり、英語力の前提条件はない。 最終評価は、試験、小テスト、プレゼンテーション、そして、学校方針に従い授業に積極的に参加することなどを総合的に考慮して行う。 この講座の長期目標は、英語を学習する動機付けとモチベーションの維持をはかり、グローバル社会において、英語を使えるようにすることを目指す。	
		英語コミュニケーションⅡ	この講座を受講するにあたり、英語コミュニケーションⅠを修了していることが必須である。 本講座では、コミュニケーションで使われる基礎的な文法を確実に身に付け、語彙力を伸ばし、自信を持って流暢に会話ができるよう、いろいろな場面を想定し、リスニング、ペアワーク、反復練習を行い、レベルアップを図ります。最終評価は、試験、小テスト、プレゼンテーション、そして、学校方針に従い授業に積極的に参加することなどを総合的に考慮して行う。この講座の長期目標は、英語を学習する動機付けとモチベーションの維持をはかり、グローバル社会において、英語を使えるようにすることを目指す。	
		英語(中級)	社会に出て仕事や研究のツールとして使うに足る、英語力を養うために、英語を多角的に学び、教養のある「英語」に向上させていく。「読む」「聴く」の受信面と「書く」「話す」の発信面の4つの技能を大学レベルまで高める。アカデミックライティング(エッセイの構成の基礎的理解)とオーラル・プレゼンテーションを中心に学習する。適切な文を書き、ライティングの過程を踏まえて、論理的に構成されたパラグラフを書くことを学ぶ。習熟度別クラス展開を行なう。	
	外 国 語 科 目	英語(上級)	各自の専門分野に関連させたかたちで、より高度な英語運用能力が身につくように勉強する。論文作成を行なうことを目的にして、英語文献を読みこなし、国際会議等で発表や議論をするための基礎能力開発を行う。学術論文の構成を理解した上での読み方、効果的なプレゼンテーションの仕方、ディベートの訓練等を行う。習熟度別クラス展開を行なう。	
		韓国語	韓国語は、日本語とほぼ同じ語順で、日本人にとって最も習得しやすい言語と言える。文字と発音に習熟すると同時に、簡単な会話文やあいさつなど実用性に重点をおいて、韓国語に慣れ親しみ学んでいく。また視聴覚教材を通して、韓国の文化や風習に触れる。	
		中国語	中国語の基本的な文法事項を確実に習得して、文法の進度に合わせて簡単な日常会話ができるようになることを目標とする。また、ビデオやDVDを用いて中国の文化遺産や歌などを紹介して、中国の文化や社会事情を通して理解を深める。	
		ドイツ語	ドイツ語では、初歩的な文法の一部を取り上げて、学習する。また、文法事項を通じて、ドイツ語圏(ドイツ・スイス・オーストリアなど)の生活・文化についても触れながら、理解を深めていく。	
		フランス語	フランス語の基本的な文法事項を確実に習得し、文法の進度に合わせて簡単な日常会話ができるようになることを目標とする。フランス語を学ぶことを通して、フランス語を母語とする社会についての知識と関心を深めて、フランスの文化や社会事情への理解を深める。	
		スペイン語	スペイン語の基本的な文法事項を確実に習得し、文法の進度に合わせて簡単な日常会話ができるようになることを目標とする。スペイン語を学ぶことを通して、スペイン語を母語とする社会についての知識と関心を深めて、スペインの文化や社会事情への理解を深める。	
	教 養 科 目	現代生活と政治・経済	「現代生活と政治経済」は、政治と経済を中心に社会の動く仕組みを理解する。政治と経済は不可分の関係にあり、その相互作用を理解することが、社会の動きを読み解くためのリテラシーを高めることにつながる。社会的格差が広がっていると指摘される現代だが、政治学と経済学の基礎理論を通して、競争や公平の概念を理解し、議論できる学びの深化を目指す。まず、経済学から説き起こし、提起された課題を政治学が引き取り、最後に二つの学の重なりを双方向的授業展開の中で確認し、現代生活への理解を深める。 経済学については、基礎理論として基礎概念を学び、さらに市場メカニズムについて考察する。身近な生活と経済とのかかわりを考察するとともに今日の課題を理解する。(澤田一義 1回～8回、15回) 政治学については、基礎理論として政治学、公共経済学について学び、生活と政治の関連を深める。社会における公平や世界の中の日本について考察を深める。(相内眞子 1回、9回～15回)	オムニバス
		現代生活と法律	現代生活において、社会の秩序を維持するためには、「法律」という客観的な価値の基準が必要である。人々の生活を強制できる唯一のものでもある。この根本には「人間の尊重」があり、これは現在、日本国憲法のもとで定められているあらゆる法律に共通する普遍的な原理である。高度に進化した現代社会では、個人においても組織体においても、コンプライアンスという言葉により、いっそう法の遵守の意義が求められている。私たちの日常生活において、様々な場面で関わりのある法律の存在を改めて意識し、理解を深めていく。	

授 業 科 目 の 概 要				
(生涯スポーツ学部健康福祉学科)				
区 科 分 目	授業科目の名称		講義等の内容	備考
全 学 共 通 科 目	教 養 科 目	現代生活と福祉	現代社会においては、私たちの暮らしは、個人的な力だけでは営むことができなく、社会全体で助け合う仕組みにより成立している。授業では、現代生活の特徴を明らかにし、福祉制度がどのように私たちの暮らしに結びついているかを学び、生活全般にわたる福祉についての理解を深める。	
		現代生活と芸術	現代社会における芸術をどのように位置づけ、考え、学び、実践していくのかを、音楽、美術の両面から考察し検証する。芸術が社会とどのように関連し、何が創造され、生活や社会活動を豊かにするのかを、過去と現在を比較しながら学んでいく。音楽では、現代生活に大きく影響を与えた音楽史での発明とこれまでの経緯をたどり、現代における音楽のあり方を検証する。また美術では表現の歴史と社会背景について知り、それらが現代にまで与える影響や生かされている点について、現代の美術作家の視点をもとに検証を進め学びにつなげていくと同時に社会活動としてのアートという観点から様々な実践例をもとに学んでいく。 ○原始時代の痕跡、ルネッサンス、印象派、葛飾北斎、コンテンポラリーアート、アウトサイダーアート、アートプロジェクトといった視点を通して、現代の生活や価値観を通して、芸術を比較し検証する。(末次弘明 1回～8回) ○楽譜、オペラ、歌舞伎、平均律、ピアノ、録音技術、音楽鑑賞プロジェクトといった切り口から現代生活における音楽のあり様を比較し検証する。(鈴木しおり 1回、9回～15回)	オンパス
		現代生活と教育	教育を成長の過程と併せてとらえ、現代生活を有意義に過ごす上で必要となる基礎的リテラシーを磨く。教育とは何かを考えることから始め、第Ⅰ部では、人間の成長段階に合わせ、貝原益軒の「和俗童子論」、世阿弥「花伝書」、宮本武蔵「五輪の書」、鴨長明「方丈記」、高田好胤「好胤のことば」等と比較しながら教育の意味や意義を考える。第Ⅱ部は、企業の新人教育、新製品開発にかかわるエピソード、一流スポーツ選手へのインタビュー等をもとに、教育と成長との関わりについて考える。	
		現代生活と心と体	現代生活は、経済の発展、技術革新、人・物・情報などが自由に移動する等により、豊かで便利な生活となり、人間の健康水準は向上している。しかし、その一方で、感染症、生活習慣病、心の病といった新たな健康問題も出現している。本講義では、人間を取り巻く現代生活の特徴、心や体の基本的知識、代表的な心や体に関わる問題について理解を深める。また、自らの心と体に目を向け、現代生活で心や体を守るために必要なことについて考える力を養う。	
		現代生活と物理	物理は自然科学の基礎と言われている。普段私たちは物理ということを意識して過ごすことはあまりない。実は、自然現象や日常生活においておこる様々な現象は、物理に密接に関係している。物理は身近なものなのである。「なぜ飛行機はとぶのか」「空はどうして色が変わるのか」「そもそも色とは何か」「超伝導とは何か」「音や音程のしくみは」「なぜ時には速さがあるのか」「なぜ摩擦がおきるのか」など、疑問はつきない。物理の基本的概念の助けを借りて理解できることがたくさんある。この講義では、物理の知識を学び、日常生活においておきる現象を客観的に見る力を養い、専門分野の学びを深めることにつなげる。 ○光（空の色、物体の色、色） 松澤衛/3回 ○音（音程、音色、ドップラー効果） 松澤衛/3回 ○運動（時速、衝突） 小田研/3回 ○熱と摩擦 小田研/3回 ○電気と磁気（磁気と記憶） 小田研/3回	オンパス
		現代生活と宇宙	身近なところにある現代生活と宇宙のつながりについて、3つの視点で講義を展開する。まず、宇宙誕生から現代までの時間を様々な時間スケールに置き換えて考える。137億年の歴史を1年に縮め、宇宙の歴史における人類について考える。次に、宇宙に飛び出した人類の視点から、宇宙開発や宇宙から見た地球、宇宙飛行士などをテーマに宇宙から見た地球を考える。最後に、人類が宇宙へ進出する中で生まれた様々な技術が、私たちの生活の中にも役立てられている。この技術移転（スピノフ）について紹介する。	
		現代生活と環境科学	現代の私たちの生活は、科学の発展とともに物質的に豊かで便利なものになってきた。しかしその反面、自然環境の汚染による生活環境の悪化、資源エネルギーの不足、地球温暖化など様々な問題が生じている。本講義では、人間をとりまく自然のおよび社会的環境とそこで生じている今日的課題について理解し、環境と人間の関わりについて考え、問題解決の方向を探ることを目的とする。はじめに、環境とは何かについて考える。地域環境と生命とのかかわりや、快適環境への人間の適応、現代生活における生活リズム・大気・水・化学物質等について考察を深め、地球を取り巻く環境の諸問題について考える。	
		北海道の文化	北海道はアイヌ民族が先住民族として居住する地域に、明治以降に各地から200万人以上の人々が移り住んだ地域である。移住地で庶民はどのような生活文化を築いたのだろうか。庶民が営々と築きあげてきた日本の生活文化について、民俗学視点から講義する。本講義では昔から伝承された生活文化が、現在はどういうに変化しているのか。昔と今の文化を比較しながら、具体的な事例をもとに自文化について考察する。また人の移動と文化形成の視点から、北海道が新しい文化を受け入れやすいという道民性についても考える。	

授 業 科 目 の 概 要				
(生涯スポーツ学部健康福祉学科)				
区 科 分 目	授業科目の名称		講義等の内容	備考
全 学 共 通 科 目	教 養 科 目	日本国憲法	日本国憲法は、我が国の最高法規・国づくりの基本となるものである。したがって、私たちの住む国家・社会をどのように発展させていくかの指標ともいえる。その意味では、日本国憲法の内容、役割、機能を真摯に学習することは、主権者である私たち国民にとって極めて大切なことである。中学・高校と学んできた日本国憲法の知識をもとに、憲法の基本理念やしきみについて理解を深めていく。さらに、憲法が制定されて60年以上が経過する間に、多くの憲法問題、裁判例が蓄積されてきたことを踏まえ、現代的な諸課題についても主権者としてどうあるべきかを学んでいく。	
		情報社会及び情報倫理	インターネットの普及により、情報や情報技術、ネットワーク技術に関わる様々な事柄が、当然のこととして扱われている。それらを正しく理解、利用することで、社会生活により良い効果が生まれる。しかし、間違った理解や、利用方法を誤ると、個人においても社会に対しての悪影響を防ぐことはできない。情報や情報技術、ネットワーク技術がめまぐるしく発達する中で、その利用方法や役割、影響等について、正しく理解し、考察し、情報倫理の必要性や、情報を扱う責任について考え、望ましい情報社会の構築に積極的に参加する態度を身につけることを目的としている。	
		情報処理(中級)	どのような社会分野でも情報処理の技術が、求められる時代になってきた。本学でも情報処理の基礎としての科目を用意しており、社会人生活で最低限必要な知識と技術を身につけることができる。情報処理中級では、基礎技術をベースとして、より高い社会の要求に対応できる人材育成を目的とし、アプリケーションを自在に操るマクロ、情報の整理整頓を行うデータベースを中心に、コンピュータでのデータ処理の知識、技術を学習する。	
		情報処理(上級)	どのような分野でも仕事を行う上での必須アイテムがコンピュータである。本学では、情報処理の基礎、中級という科目を用意しており、社会に必要な情報処理技術を学ぶことができる。この科目では、更にコンピュータ、スマートフォンに代表される携帯端末、ネットワークの仕組みを理解し、より高度な情報処理技術を学ぶ。情報端末やネットワークをプログラミングにより制御をして、コンピュータを自由自在に制御する方法を習得することを目的とする。	
	就 業 力 養 成 科 目	キャリアデザインⅠ	本講義は、体系的に開講される本学キャリア教育科目のスタート地点に位置する基礎科目である。自己の進路を見据えて望ましい職業観の醸成を主なねらいとし、学び、働くことの意味を考えることから始める。いずれ、己の足で立つ労働市場の現状を早い時点で知ること、次の段階への意欲づけにつなげたい。講義を通じ、大学で学ぶことや社会で働くことの意義について、若年労働市場の現状を経済情勢や雇用環境の変化などと関連づけて理解し、自らのキャリアについての展望を持てるように促す。	
		キャリアデザインⅡ	本講義は、キャリアデザインⅠに続く基礎科目として、キャリア意識の醸成を目指す。様々なキャリアを経験してきた教員や各種の仕事で活躍している卒業生の話を聞き、多様な生き方や考えがあることを学ぶ。これにより自己の興味範囲外の世界があり、一見関係のない分野も全てが繋がって社会が成り立っていることを理解し、キャリアの広がり認識する。また、社会に出ていくために必要なワークルールや敬語など社会人としてのコミュニケーションのルールについて学ぶ。	
		キャリアデザインⅢ	本講義は、自らのキャリアを構築させるための対人基礎力、対自己基礎力、コミュニケーション基礎力の醸成を目指す。様々なコミュニケーションワークを体験し、自己の意見を伝え、他者の意見に耳を傾けることができる「発信力」「傾聴力」の習得を図る。また、自己の考えを文書化し、グループの中で主張できる「表現力」「企画力」の習得を図る。小グループでの企画書づくりを通して、他のメンバーと協力して物事を作り上げる「課題解決力」の習得を目指す。	
		キャリア演習Ⅰ	本演習は、自らのキャリア構築のための実践的な対人基礎力、対自己基礎力、コミュニケーション基礎力の向上を目指す。対自己基礎力では、就職活動の自己アピール文を作るための自己分析を行い、自分の強みを正しく理解する。対人基礎力では、他者へ訴求できることを目指し、実践的な自己PR演習を行う。また、就職活動には欠かせない履歴書の作成を通して言語的コミュニケーション基礎力の向上を目指す。まとめとして、就職活動で成功するために自らの目標を設定し、実現のための具体的な行程表を作成する。	
		キャリア演習Ⅱ	本演習では、進路決定のための実践的な就職活動の基本についてを学ぶ。模擬面接、模擬グループディスカッション等の実践的な演習を通じて、自己のコミュニケーション力を正しく把握し、さらなる自主努力の必要性を理解し、自発的行動への意識を喚起する。民間企業、福祉施設、教職、公務員など志望分野は異なっても、社会・職業への移行に必要な力・本質は同じであるという大原則を正しく理解する。また、ビジネスマナーを通じて社会人としての立ち居振る舞いの習得を目指す。	※講義
		キャリア演習Ⅲ	本演習は、本学のキャリア教育の中で実践教育に位置づけられる。就職活動中の民間企業希望者や福祉施設希望者、面接試験を控えた教員や公務員志望者を対象に開講する。演習では、模擬グループディスカッションや模擬面接を通して「面接力」の向上を目指す。模擬面接では、受験者役、面接官役、評価者の3役全てを体験することで、それぞれの視点を理解し、柔軟性と状況把握力を養う。また、「面接力」の基本となるコミュニケーション能力の向上を目指す。	

授 業 科 目 の 概 要				
(生涯スポーツ学部健康福祉学科)				
区 科 分 目	授業科目の名称		講義等の内容	備考
全 学 共 通 科 目	就 業 力 養 成 科 目	キャリア演習Ⅳ	本演習は、本学のキャリア教育科目の総括科目にあたる。将来の進路決定の有無に関わらず、今後一生続く自らのキャリアを見つめる社会人としての視点を学ぶ。社会で活躍している人の講演や、ビジネスマナー、働く人の法制度等を学ぶことにより、物事に対する俯瞰的視点の習得を図る。社会のルール、社会的行動への理解を深め、応用力を養成することで、社会人1年目から活躍できる「+αの社会人力」を身につけることを目指す。	※講義
		就業力特別講義Ⅰ	本講義は、民間企業の就職試験において90%以上実施されている筆記試験対策の実践教育である。対策分野はSPIの非言語分野に絞り、展開方法は全8回のオムニバス方式で実施する。各分野の担当講師から解法のポイントを学び、論理的思考の醸成を目指す。 8回の講義内容は以下の通りである。 ○確率 : (松澤) ○グラフの領域 : (佐藤(克)) ○速度算(速度・距離・時間) : (菊池) ○割合、比率、濃度 : (水野) ○仕事算、水槽算 : (松村) ○損益算 : (澤田) ○集合、順列・組み合わせ : (西村) ○表の読み取り : (佐々木(雅))	オムニバス
		就業力特別講義Ⅱ	本講義は、就業力特別講義Ⅰで学んだSPIの解法を正しく理解し、自らの実践力を確認し、論理的思考の深度を図ることを目指す。講義では「就業力になぜSPIの勉強が必要か」を問い、相互確認することから始める。社会人基礎力における論理的思考の重要性を再認識することでSPI対策に自主的に取り組む姿勢を醸成する。SPI対策の実践では、就業力特別講義Ⅰの復習と応用問題に取り組み、正確でより速い解法力を育む。 (オムニバス方式/全8回) (小室晴陽/1回) SPI非言語対策と論理的思考の必要性 (菊池隆夫/7回) SPI非言語応用問題対策	オムニバス
		インターンシップ	本演習は、企業・団体等での就業体験を通じて就業力を育成することを目的としている。インターンシップは、①日々学んでいる専門性を実践の場で発揮する機会として、②自ら選択した職種の適性を判断する機会として、③進路とは異なる業種、職種を経験する機会として等、各自の目的に応じて活用することが可能である。インターンシップにより、将来の進路選択の際に必要なさまざまな知識を吸収すると共に、社会に通用する価値観や労働を通じた社会貢献の重要性に気づき、社会人としての基礎力を培うことを目指す。	
外 国 人 留 学 生 科 目		日本語	外国人留学生対象科目である。本学における学習場面でのコミュニケーション・学習・発表がスムーズに行えるように、「読む」「書く」「聞く」「話す」の四つの技能の向上を目標とする。また、日本の文化、事情、風習、マナーなどを読み物や視聴覚教材を通して理解することで、日本での留学生活がより有意義なものになるようにする。例えば、読解を目的に小説を読むことや、語彙と文法事項、漢字などの学びに加えて、日本の事情や文化等を扱ったニュースに触れ、日本の演劇鑑賞などを教材として学ぶ。日本語能力検定1級を必ず取得しよう。	
		現代日本の文化	外国人留学生対象科目である。現代日本の文化では、留学生の出身国(地域)における自国の文化認識を確認し、それらと比較しながら、日本文化や地域文化(北海道)の内容について理解を深める。出身国(地域)の文化認識の確認することから始めて、日本の伝統文化である「食文化」「文化遺産」「スポーツ」「芸術」「マンガ・アニメ」「生活習慣」等を学ぶ。また、北海道の地域文化を理解することを目的にして、「博物館体験授業」を通じた学びを行なう。	
発 展 科 目	心 身 ・ 健 康 に 関 する 科 目 群	食生活と健康	日本の食事や日本人が培ってきた食事文化は世界一の長寿国をもたらした。しかしながら、現在の日本人の食事のあり方にはさまざまな問題点が指摘されている。私たちの現状の食生活を直視し、健康的な食生活を営むための基礎的な知識を学ぶ。さらには自ら食事を実践するための基本的知識を養う。	
		スポーツ施設管理論	体育などのスポーツ関連施設だけでなく、集会場を含む一般的な公共施設を良好な状態で使用し続けるための各種知識を伝授する。生涯スポーツを含む生涯学習時代を迎えて益々、これらの多様な活動を支える公的施設の重要性が高まっている。そのような現代日本において、健全な社会生活を保障するために各種の施設が保つべき環境条件を講義する。具体的には各種の施設、建築物、設備、器具、屋内環境、運営面、専門家の資格ほかを学ぶ。	
		心理学概論	人間の心のはたらきについての科学的・客観的な理解を得るために、心理学の基礎的な理論や知見を学ぶことを目的とする。人間の「見る」「考える」「学ぶ」「覚える」といった基礎的な過程についての知見を解説を行う。また、「欲する」「感じる」といった心理的活動の背景にある生理的・身体的な基盤について解説する。それらを基に、心の個人差や、健康や病理についても考える。個人の自己理解や他者理解を深め、実生活や実践の場にも活用できる知恵へとつながることを目指す。	

授 業 科 目 の 概 要				
(生涯スポーツ学部健康福祉学科)				
区 科 分 目	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
心身・健康に関する科目群	心理統計法	基礎統計学で学んだ知識をもとにして、心理学領域で必要となるデータ処理の方法を学ぶ。実際のデータおよび研究事例をもとに、データ処理をフローチャート化し、どのようなデータに対してどのような処理を行うのかについて、解説する。特に統計処理の結果をどのように理解するかに焦点をあてる。具体的には、毎回、演習課題を実際に行い、考察することを通して、データの表示、平均の差の分析、実験計画と分散分析、相関・予測の分析、度数の分析、因子分析、回帰分析について、理解を深める。到達目標：(1)データの種類によって、適切な統計処理の方法を選択できる、(2)基本的な統計処理を行うことができる、(3)多変量解析の結果を理解できる。		
	生涯発達心理学	従来の発達心理学は、誕生から成人に至る段階までを対象に、それぞれの発達段階で何ができるのか、どのような行動を示すのかを明らかにするものであった。近年、人の寿命が延び、胎児期からの心理学的研究がなされるようになったことから、これまでの傾向が見直され、全生涯を扱う縦断的な観点から発達過程を捉え直すようになってきている。人間は一生をかけて発達する可能性があるという視点に立ち、誕生から死に至る人間の心理的発達過程について、これまでに明らかにされてきた研究成果を中心に概説する。		
	人間関係の心理学	人間関係は二者関係が基本となるが、それにとどまらず、より複雑な人間関係の中で様々な心の動きが生じ、その事が個々人の認知や感情、そして行動面に影響を及ぼす。人間関係はその存在が心の支えになることもあれば、ストレスになることもある。他者の心理状態を知り、適切なコミュニケーションが取れることは、家庭、学校、職場、近隣を問わず、あらゆる場面において重要である。本講義では、人間関係を心理学の視点から包括的に理解することを目的とする。		
	育児支援の心理学	現代社会では少子化が進む一方で、育児ノイローゼや児童虐待問題が益々深刻化している。子育て支援についてもさまざまな見解がある。本講義では、現代社会の実情をふまえたうえで、子育て・家族支援の現場からの具体的な事例を適宜提示しつつ、子育て支援の必要性と重要性について改めて確認し、実際に求められる子育て支援と、その実践について考える。さらには、母子世帯、父子世帯他、さまざまな家族形態における生活事象をみすえた子育て支援のあり方についても具体的に検討する。		
	福祉心理学	今日の福祉問題に関する心理学的研究は始まったばかりであり、いまだに未開拓な面が多い。社会福祉学と心理学の学際的研究領域である福祉心理学とはどのような学問なのか、福祉の対応がどのような心理的影響を与えるのかについて明らかにすることを目的とする。具体的には、福祉の対応を必要とする人々の心理的特性ならびに福祉の対応に役立つ心理的技法、そして福祉施設における心理的問題などについて、いくつかの事例をもとに学ぶ。到達目標：(1)福祉心理学とは何かを理解する、(2)対人援助における心理的支援について、基本的な理解を得る、(3)対人援助における心理的援助の方法について、基本的な理解を得る。		
	犯罪心理学	犯罪（非行）という行為を通して、社会や人間のあり方を考えることを目的とする。過去や現在の犯罪（非行）の情勢、その特徴、対策や対応などについて、心理学的視点をもとに考えていく。 具体的には、犯罪（非行）の発生する生物・心理・社会的要因について考えることや、暴力犯罪や窃盗、性犯罪などの罪種についての概要、警察におけるプロファイリングなどの犯罪対応、矯正の現場など多岐にわたって取り上げていく。		
社会と生活に関する科目群	社会教育概論	本講義は、社会教育の本質を学び社会教育主事として必要な知識を習得する。生涯学習社会における社会教育の立場と役割を学び、将来、教育委員会の社会教育行政や社会教育施設などへ就職していくための知識と技能を習得する。さらに、社会教育主事資格を取得するための必修科目であり、専門職としての知識を修得する。		
	社会教育計画	生涯学習社会の構築を目指し、地域の振興策を考える上で社会教育が重要な役割を担っている。社会教育を進める際の指針となるものが社会教育計画であり、その社会教育計画策定の基本的なことについて学ぶ。具体的な事例などを踏まえた講義と演習を取り入れながら学ぶ。		
	社会教育課題研究	生涯学習時代といわれる今日、多くの学びに取り組んでいるが、生涯学習と社会教育の立場や違いを整理し両者の役割と内容について具体的な事例などを交えながら学ぶ。さらに、生涯学習社会の実現のために社会教育が果たす役割について講義、演習を通じて学ぶ。		
	社会教育課題演習	教育行政における社会教育行政は、生涯学習を推進するためには欠かすことのできない重要な行政分野である。社会教育行政の専門的職員である社会教育主事は、社会教育を行う者に対する助言と指導が求められるため、その専門的な知識を学ぶ。講義と実践的な演習を行う。		
	社会教育施設論	社会教育施設が教育機関としての役割を果たすためには、「人」「物」「事業」等の機能の充実が求められている。本授業は、社会教育施設の目的や役割を学習するとともに、これからの施設の方向性と単なる場所としての施設ではなく、新しい学習空間としてのあり方を学ぶ。		
	青少年学習コーチング論	青少年の学習活動は、学校教育が中心であるが、生涯学習が進んだ今日では、地域における生涯学習活動の一環であると捉えることも重要な視点である。特に昨今、青少年の健全な育成のために学校教育と地域社会の連携に注目が集まっている。本講義では、青少年心理学に通ずる学習を先に行い、その後、青少年を取り巻く環境の変化を知り、青少年に対する理解や支援のありかたを探ることを目的とする。		

授 業 科 目 の 概 要				
(生涯スポーツ学部健康福祉学科)				
区 科 分 目	授業科目の名称		講義等の内容	備考
関 社 会 と 科 目 活 群 に 発 展 科 目 文 化 と 芸 術 に 関 する 科 目 群	リカレント教育論		リカレント教育とは、成人が学習の場に戻りその後再び職業へ回帰することをいう。生涯学習の範疇であり、成人が学習する場合の重要な要素として位置づけられている。特に、ヨーロッパ諸国では、生涯学習が職業的な向上を目的として実施されてきたが、今日では、学習をしたことの満足感、達成感など精神的な面での効果も明らかになっている。本講義では、OECD、ILO、ユネスコなどの見解や条約なども勘案しながら、諸外国と日本におけるリカレント教育の類似点や相違点を探る。	
	ファッションデザイン概論		ファッションデザインは、形・色彩・素材、さらには作り方と着こなしがあり完成する。そして、そのデザインが歴史を作り変わり続ける。ファッションの持つ社会的役割が、どのように変化していったのかを検証し、ファッションをどのように生活の中で役立てていけば良いのかを考える。衣服とは何か？ファッションとは何か？デザインとは何か？おしゃれとは何か？自分らしさとは何か？を一緒に考える。 (オムニバス方式/全15回) (大信田静子/7回) 日常生活の中での衣服・ファッションとは何か？を考え、基礎的要素のデザインから入り、造形・色彩のセオリーを通して内面的・外面的な美しさを学ぶ。 (富田玲子/8回) 基礎デザインを踏まえ、情報と視覚、聴覚、臭覚、触角などから入る外部情報とを組み合わせ、新しいデザインの発想と展開を学ぶ。	オムニバス
	インテリアデザイン		インテリアデザインを学習する上で必要な、基本的知識の修得を目的とする。内装材料・家具・建具等のインテリア計画、移動経路を示す動線計画、人体寸法を含む寸法計画、建物の大きさや部屋数を示す規模計画、浴室・キッチン・暖房・照明等の設備計画、換気・シック対策を含む室内環境計画を総合的に理解することを目的とする。	
	ユニバーサルデザイン		ユニバーサルデザインの理念を含む建築計画について学ぶ。具体的な建築事例などを見ながら、ユニバーサルデザインの視点から人間の行動や意識と空間との相互作用に関する建築計画について習得する。特に、国土交通省の取り組んでいるバリアフリー新法(高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律)の視点から建築計画を学ぶ。	
	空間デザイン史		本講義は、日本建築および西洋建築ならびに近代建築について、それぞれの時代において人類が生活空間を獲得してきた歩みを振り返る。わが国にあっては、海外からの技術と様式を取り入れながら独自の発展を遂げてきたことを述べる。また海外の諸国では、各時代の文化との関連性にふれつつ構法と造形の発展過程や表現などについて講義する。さらに近代の建築作品では、著名な建築家と代表作、そして作家たちの系譜に関しても論じる。その上で、まとめとして世界の現代建築と近未来を展望する。	
	美術史		西洋と日本の美術史の流れを学びながら、当時の宗教や政治、経済など社会との関係の中で理解するとともに、美術作品を鑑賞する際の基本的な視点についても学ぶ。西洋美術は、ルネサンスから20世紀まで、日本美術は飛鳥時代から現代までの美術史を通してそれぞれの変遷を理解し、現代美術の多岐にわたる様相を考える手がかりを得ることが本講義の目的である。さらに、日本の伝統美術とアジアの美術の潮流を眺めながら、こうした展開を具体的な作品を取り上げて鑑賞しながら検証する。	
	美学		西洋におけるプラトン、アリストテレス、カント、シラー、バルト、リクール等、また中国と日本における画論、詩歌論、芸道論などを紹介を通じて、美と芸術に対する体系的な知識を講述する。またそうした思索力、記述力、鑑賞力が応用が可能かどうか、大学キャンパス内や札幌市内の美術館、ギャラリーに展示されている実作品を対象にして、検証する。	
	音楽概論		人間にとって感情表現手段の一つである「音楽」はどのように生まれ、どのように表現され、伝わるのか・・・。「音楽」の素材である「音」そのものや、音の組合せによって生まれる「旋律」「和声」「リズム」といった音楽の構成要素、さらには表現手段としての声や楽器の種類、構造と発音原理など、歴史的変遷を踏まえながら様々な角度から「音楽」を概観する。	
	音楽鑑賞法		音楽は記憶の芸術である。音楽の記憶は日常生活の場面と結びつく視覚につながるものが多く、音楽によって様々なシーンを連想させることもある。劇音楽やバレエ音楽は、まさにその効果を期待したものである。すべての音楽が直接情景を思い浮かべられる事を意図したものではないが、何らかの現象や情景を漠然と思い描かせるものである。名曲を鑑賞するとき、より深い理解と楽しみ方を得るために必要な知識と手段を作品の解説や作品の生まれた背景、演奏楽器の興味深い話を交えながら研究する。	
	音楽史		西洋音楽史の10講義は、現代の音楽にいたる道のりをバロック、古典派、ロマン派、近代等の時代を認識し、各時代の音楽的特徴と音楽が生まれた背景を踏まえてその時代の作曲家の作品にふれながら、その人となりに関するエピソードを交えて進めていく。さらに日本音楽史5講義においては、伝統音楽及びアジア民族の音楽を鑑賞しながら雅楽、三味線、尺八、箏などの音楽を中心に歌舞伎、能狂言、浄瑠璃などの舞台芸術を検証し、日本独自の音楽の歴史を認識する。 (オムニバス方式/全15回) (菅原/6回) 西洋音楽の起源、ルネサンス～バロック、20世紀の音楽 (鈴木/4回) ピアノ音楽を中心に古典派、ロマン派～印象派、日本の音楽 (岡元/2回) 歌曲を中心にロマン派と日本の音楽 (千葉/3回) 管弦楽を中心にロマン派と日本の現代音楽、楽器の歴史	オムニバス

授 業 科 目 の 概 要			
(生涯スポーツ学部健康福祉学科)			
区 科 分 目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学 部 共 通 科 目	生涯スポーツ学	生涯スポーツの概念や広まってきた背景を学ぶ。幅広い年代や多様な特性をもつ人々に向けて生涯スポーツを推進していく中で必要な、各年代や生涯を通じて起こりうる心身の変化や取り巻く社会環境について理解し、運動・スポーツとの関係で考察する。	
	生涯学習論	本講では、生涯学習の基本的なことについて学習する。人々が生涯のいつでも自由に学習機会を選択し学ぶことができ、その成果が適切に評価されるような社会の実現を目指すためのあり方を学ぶ。さらに、生涯学習と生涯教育の関連構造、生涯学習と社会教育、生涯学習と自己形成の関わりなどについて学ぶ。あわせて、国内外の生涯学習の歴史的背景などについて学習する。	
	生涯学習展開論	生涯学習とは、人々が生涯にわたって行なわれるさまざまな学びの総称である。近年、だれでもが、いつでも、どこでも学ぶことができ、学んだことが適切に評価される社会の実現が強く求められている。そのために本講義では、R・J・ハヴィーガーストの発達課題を中心に学習し、人々の成長に沿った学習課題を学ぶ。	
	栄養と健康	戦後の生活水準の向上は食生活を豊かにした一方で、栄養の摂りすぎ、偏りをもたらし、これが生活習慣病の大きな原因となっている。ここでは栄養素の役割を理解し、エネルギーおよび栄養素の代謝とその生理的意義を理解し、それぞれが食生活の大切さを認識し正しく実践できることを目標とする。	
	健康学	本講義では、現代社会に生きる我々がどのように健康づくりを実践していけばよいかについての基礎知識を身につけることを目的とする。講義内容は、栄養・運動・休養の3要素を中心に、心の問題や環境問題、性別や年齢別の健康問題など多岐にわたる。また具体的な取り組み事例や健康づくり行動継続のための心理的な手法についても学ぶ。講義では、それぞれのテーマにおける科学的なエビデンスを紹介し、これらに基づいた健康づくりを学生自身が考えるという流れで進める。	
	健康管理論	健康の概念とその阻害要因を学び、諸外国・本邦における死因。疾病構造、本邦における健康水準の現状、健康づくり施策、問題点を理解する。また高齢化社会の現状を理解し、性・年齢の違いに応じた健康管理方法・システムを学ぶ。応用として運動・スポーツ活動、競技における健康管理について学び、大学生活に活かす。授業では常にトピックを提供し、PC、動画、プリントなどを用いて行う。	
	地域支援実習	本講義では、地域貢献の意義と目的及び具体的な手法等について学ぶ。各地域で行われている各種のスポーツ活動及びスポーツイベント、福祉、産業、観光等のさまざまな事業の運営、指導などに対して実践的な支援活動を行う。さらに、支援活動から地域づくりの在り方や各種事業の企画実施、運営、指導法などについても学習する。さらに、実習後は、レポート提出と報告会で発表することを必修とする。実習は一部集中形式で行う。	集中
	コミュニケーション論	コミュニケーションは人と人との間に共同性を打ちたてようとする働きかけである。本講義では、コミュニケーションの概念について学習するとともに言語・非言語コミュニケーションのコミュニケーション・スキルのトレーニング方法を体験する。また、近年、社会人基礎力のひとつとしてあげられるコミュニケーション力について考える。	
	健康運動指導演習	健康づくりのための運動指導者の役割を理解し、必要とされる知識と技能を身につけることを目的とする。健康と運動に関する知識を深めるとともに、「運動プログラムを作る」「動きを指導する」「動きの見本を示す」という指導の基本理論を学ぶ。特に、エアロビックスダンス、レジスタンス運動、水泳・水中運動に関しては、指導の実践を通し、集団に対する安全で効果的な指導の方法について学習を深めていく。	
	体育原理	本講義では「体育」とは何か、その目的、内容、方法及び「体育」を実践する上で必要な原理等について理解し、体育についての理解を深め、体育をめぐる諸問題についての判断力、思考力を高めることを目標とする。そして体育やスポーツに関連する哲学的な思想を理解する。	
	スポーツ心理学	スポーツ競技において良い成績をあげるためには、技術面・体力面に加え、心理面も重要な要素である。この授業では、自分自身の心の動きについての基礎知識を学び、スポーツ活動や運動パフォーマンスを促進するために必要な心理的スキルを学習する。また、スポーツ場面特有の心理的現象やその対処法についての認識を深める内容について学ぶ。	
	スポーツ社会学	現代社会におけるスポーツの系譜を社会学の視点から理論的かつ実践的に学ぶ。講義においては、社会学の基礎理念と理論を適用し、スポーツの持つ多様な複合的な側面の分析スキルを習得し、その社会現象や社会的背景の理解を深める。	
	スポーツ運動学	競技スポーツや学校体育の指導において、学習者の“動き”を把握した改善していくことは指導者にとって最も重要な役目となる。運動を覚える、また覚えさせるという活動はただ単純に知識の獲得だけで成立するものではなく、動きかたの知として実際の運動を通してでしか成り立たないものである。この講義では、スポーツにおける運動学習の基礎理論について学習位相、運動質、運動構造、運動技術、運動観察の概念を、人間学的・現象学的立場から概説する。そしてスポーツ指導者、保健体育教員としての基本的知識を身に付けることがねらいである。	

授 業 科 目 の 概 要			
(生涯スポーツ学部健康福祉学科)			
区 科 分 目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学 部 共 通 科 目	スポーツマネジメント	学校や地域のスポーツクラブ、公共や民間のスポーツクラブ、ホテルやリゾートのスポーツ施設、さらにはプロスポーツなど、さまざまなスポーツ組織においては、参加者や活動者が十分な満足や成果を得るためには、意欲的な行動が不可欠となる。そのためには、複雑な環境や条件をコントロールすることが必要となる。 そこで、スポーツ集団や組織をコントロールする手段としての、基本的なマネジメント理論と実践方法を学び、スポーツにおける経営、会計、経済、法律、倫理、行政・政策などから、スポーツマネジメントにおける将来的な展望を考察したい。そして、スポーツマネジメント、スポーツ指導、生涯スポーツ支援に携わるものとして、必要な知識と能力を身につけたい。	
	スポーツ史	スポーツの歴史とはなんだろうか？さまざまな競技の歴史を知ること重要だが、スポーツそのものが社会や国家と切り離せない関係にあることの認識は不可欠である。 そのため本講義ではオリンピックを軸にスポーツが社会においてどのような位置づけにあり、またなぜそうなってきたのかについて考える。講義内ではなるべく多くの資料を提示することにより、理解を深めていけるようにしたい。	
	生理学	生理学は、人が体を維持するために必要な「機能」とその「メカニズム」を解明する学問である。運動によって生じる人体の正常な生理的反応を理解することで、疾病や傷害などのリスクに対して適切な対処を取ることができる。本科目では、筋収縮のメカニズム、呼吸および循環のメカニズムを中心に学習する。	
	運動生理学	健康の維持・増進に重点を置く運動生理学を講ずる。酸素運搬系（呼吸・循環系を含む）、エネルギー代謝系、健康運動と血液生化学、加齢運動生理学、生活習慣病危険因子と運動、特にメタボリックシンドロームと運動、運動栄養、などの諸項目を現代社会で進む運動不足の問題に対比させつつ運動の効用の観点から知識化できるように講ずる。	
	就業力特別演習Ⅰ	本演習は、体系的に開講される本学キャリア教育の中で実践教育に位置する。自己の進路を見据えて、志望する職業と関連する免許・資格について学び、当該分野で働くことの意味を考える。具体的な免許・資格は、介護福祉士、社会福祉士、アスレチックトレーナー、教員（特別支援含む）である。	
	就業力特別演習Ⅱ	本演習は、体系的に開講される本学キャリア教育の中で実践教育に位置する。自己の志望分野に必要な資格に関わる実践的な演習を通じて、当該免許・資格の取得を目指す。具体的な免許・資格は、介護福祉士、社会福祉士、健康運動指導士、アスレチックトレーナー、教員（特別支援含む）である。	
	就業力特別演習Ⅲ	本演習は、本学のキャリア教育の中で実践的総括科目にあたる。将来の進路決定のために自らが志望した分野について、より一層の理解を深め、実践的応用力を身につけることを目指す。具体的な免許・資格は、介護福祉士、社会福祉士、健康運動指導士である。	
学 科 専 門 科 目	健康福祉学概論Ⅰ	これからの長寿社会で求められる概念・事象を健康とスポーツ、社会福祉、介護福祉という三つの視野で学び、健康福祉学科で学ぶ意識を高める。 健康福祉学科での学びを通して取得できる諸資格について、関連する法・制度を理解し、資格の持つ特性と社会における現状を把握する。その上で、自らの将来像を明確にし、志望する進路に沿った学習計画を立てる力量を身につけることを目指す。 (オムニバス方式／全15回) (山本麻由美／3回) 本講義のオリエンテーションを行い、受講方法を理解する。また、まとめとしてグループワークによる学びの共有をはかる。 (小田史郎／4回) 「健康運動指導士」「健康運動実践指導者」はどのような役割をもって、どのような場所で活躍しているのか。本資格を目指すために何が必要かについて学ぶ。 (本間美幸／4回) 介護の専門職である「介護福祉士」はどのような役割をもって、どのような場所で活躍しているのか。介護福祉士を目指すために何が必要かについて学ぶ。 (吉田修大／4回) 福祉の専門職である「社会福祉士」はどのような役割をもって、どのような場所で活躍しているのか。社会福祉士を目指すために何が必要かについて学ぶ。	オムニバス
	健康福祉学概論Ⅱ	健康福祉学概論Ⅰの学びを基礎に、現代の地域社会で求められる健康・福祉・介護・スポーツに関連する専門職のありようを実践的に学んでいく。 健康・福祉・介護・スポーツに関連する専門職が活躍する場（施設・機関・病院など）を訪問し、専門職と対象者の両者から学び、自ら目指す専門職とその活躍する場への理解を深める。また、専門職の方の講義を受け、専門職としての態度や資格取得への要件などを学び2年次以降の履修計画に繋げる。 (オムニバス方式／全15回) (山本麻由美／3回) 本講義のオリエンテーションを行い、受講方法を理解する。また、まとめとしてグループワークによる学びの共有をはかる。 (小田史郎／4回) 健康運動指導士、健康運動実践指導者の活躍現場を見学し、実際の指導を体験することを通して資格についての理解を深める。 (本間美幸／4回) 介護福祉サービスが提供される施設・機関を訪問して、介護福祉の対象者とその生活環境について理解を深める。また、介護福祉士の活躍する場を通して、専門職の必要性について学ぶ。 (吉田修大／4回) 相談援助が提供される施設・機関を訪問して、社会福祉の対象者と支援のあり方について理解を深める。また、社会福祉士の活躍する場を通して、専門職の必要性について学ぶ。	オムニバス

授 業 科 目 の 概 要			
(生涯スポーツ学部健康福祉学科)			
区 科 分 目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学 科 専 門 科 目	スポーツ医学基礎	健康増進や体力の向上、人間にとって生涯を生きる上で必要なスポーツは、高齢化社会の進展や生活習慣病の増加、青少年の体力対価などの問題への対応が期待されている。このような現代社会において質の高い健康・スポーツ指導者として必要不可欠なスポーツ医学の基礎的な知識を学ぶ。さらに講義を通して自らの健康やスポーツ活動について考える機会を持ち、今後のスポーツ活動を継続していく上で役立てるものとなることを目的とする。(オムニバス方式／全15回) (杉岡品子／11回) スポーツ活動中に多いけがや病気、アスリートの内科的障害、外傷、救急処置、スポーツによる精神障害の講義を担当。 (吉田昌弘／3回) アスレティックリハビリテーションとトレーニング計画、コンディショニングの手法についての講義を担当。 (永谷稔／1回) アンチドーピングについての講義を担当。	オムニバス
	スポーツ内科学	スポーツ領域における内科的疾患についての知識を学び、それらの対処法、予防法を身につける。授業は常にトピックを提供しながら進める。授業にはPCスライド、動画、プリントなどを用いる。	
	スポーツ整形外科学	スポーツにおけるパフォーマンスは日常生活活動動作と比較して非常に大きなエネルギーを発生するため、特異的なケガが発生することからスポーツ活動中に発生するケガをスポーツ外傷・障害と呼ぶ。本科目の前半では、スポーツ外傷・障害に関する理解を深めるために、組織の治癒過程について概説し、引続き、体幹、上肢、下肢のスポーツ外傷・障害について代表的な運動器疾患を中心に、病態や発生機転、診断方法について解説する。 (オムニバス方式／全15回) (渡邊耕太／4回) 膝関節および下腿・足関節についての講義を担当。 (小島昌規／4回) 股関節および殿部・大腿部についての講義を担当。 (谷 雅彦／4回) 頭部・体幹についての講義を担当。 (廣瀬聡明／3回) 上肢についての講義を担当。	オムニバス
	スポーツ・バイオメカニクス	バイオメカニクスとはスポーツや運動における人間の動作を力学的な観点から分析し、動作を客観化する学問分野である。講義では、主に、重心、床反力、床反力作用点、関節モーメントをキーワードとして、身体運動の力学的メカニズムを理解することを目的としている。3次元動作分析装置で計測された動画を使用し、力学的な考え方や表現方法について習得する。	
	コーチ学	スポーツ実施者の目的と個人的諸条件を考慮し、技術学だけでなく人間学的な側面の重要性をしっかりと理解し、より良い指導方法を学習する。優れたコーチの資質、役割、技術指導方法、指導計画、評価方法を理解する。また競技に応じた指導計画の方法とIT機器の活用について学ぶ	
	身体発達・発育論	本講義のねらいは、生涯スポーツ学とりわけスポーツ教育分野を実践する上で必須の身体の発育および発達の法則性を理解することである。まず身体の発育や発達に関する用語を整理し、先人達による発育発・達段階の区分とその暦年齢の概要を理解する。次に、各段階における運動機能の発育・発達に関連する法則性を理解する。とりわけ、筋器官、骨器官、神経器官における法則性に力点をおく。	
	ジュニアスポーツ論	この授業はスポーツ教育コースの学生の必修単位であり、教職を取っている学生も多くいることや将来何らかの指導者を目指す学生が多いと考えられる。そこで、本授業では、ジュニアのスポーツ指導方法を学ぶだけでなく、指導者としてどのような視点を持つておくべきか考える場としたい。そのために、身体発育や体力・運動能力の発達に関する知識、指導に活かせる簡単なバイオメカニクスの手法を用いたコーチング方法、さまざまなスポーツの体力・技術トレーニングの効果について、加えてタレント発掘に関する知見についても学習する。そして、この授業は講義形式となっているが演習的なことも組み込み、受講者の代表者に授業毎にジャンプ測定を行いたい。その代表者の前期15回授業をジャンプをずっと見続けることで、何が変わりジャンプ測定の測定値が変化しているのかを、受講者全員で原因を突き止めて行きたい。このことが指導者としての目を養う一つの題材になるのではないかと考える。	
	中高年スポーツ論	健康づくりのための運動が必要となる対象の多くは中高年層であり、個々人のライフサイクルを見据え「健やかに老いる」ための方法を計画し提案を行えることが中高年層への運動指導者として望まれる。そのためには国内の健康づくりの取り組みや施策を把握し、さらに身体的な特徴や健康管理について知識を有する必要がある。本講義は、健康運動の指導者となるために必要な知識や技術の一部を習得することを目的とする。	
	障がい者スポーツ論	スポーツの取り組みは、余暇生活の充実といった視点からも、障がいのある人の生活において大変重要な役割を果たしている。本講義では、ICF（国際生活機能分類）による国際的な障がいの考え方を明らかにした上で、様々な障がいの病理と特徴について学ぶ。その上で、障害に対応した様々なスポーツの取り組みについて知ることを目的とする。	
	基礎解剖学	人体の組織および器官がどのような構造で成り立ち、どのような機能を持っているのかを理解することを目的とする。特に、身体運動の基本となる受動的運動器である骨格系と能動的運動器である筋系の形態と機能を重点的に学ぶ。	
	機能解剖学	本科目は解剖学における人体の基本的構造の知識を基盤に、人体の運動発現がどのような仕組みで行われるのかについて筋骨格系を中心に理解を深めることを目的とする。前半では、筋骨格を構成する骨、関節、筋の基本的構造について解説し、四肢・体幹の各関節における運動について学ぶ。後半では、人体の基本的な動作である、リーチ動作、立ち上がり、歩行について運動学的側面から解説する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(生涯スポーツ学部健康福祉学科)			
区 科 分 目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学 科 専 門 科 目	トレーニング論	スポーツ・運動では体力やスポーツパフォーマンスを効率的に向上させるためにはどのようなトレーニング法で実施したらよいかを考える。そのためにトレーニング全般に関する基礎と応用の知識を広く学習する。内容は、一般、競技、各年齢層、そして、性別に関してあらゆる対象に適したトレーニング法について説明する。	
	トレーニング演習	トレーニング論で身につけた基礎知識を活用して、さまざまなトレーニング方法と指導技術の向上をはかるため、グループごとに、①マシン、②フリーウェイト、③自重負荷、④器具、⑤複合運動 ⑥介護予防を展開する。 (オムニバス方式／全15回) (柚木／3回) マシン：機能解剖に沿った機器の使用方法和正しいフォームを学ぶ。 (高田／2回) フリーウェイト：重力にそったウェイトの拳上方法と安全な補助の方法を学ぶ。 (重成／3回) 自重負荷：自体重を利用した基本トレーニングと指導の方法を学ぶ。 (井出／3回) 器具：器具を利用した基本トレーニングとバランス能力や巧緻性を高める方法を学ぶ。 (近藤／2回) 複合運動：複数の種目を一定のインターバルで実施するサーキットトレーニング方法を学ぶ (上田／2回) 介護予防：介護予防に有効なトレーニングの方法と指導方法を学ぶ。	オムニバス
	レジャー・レクリエーション論	レジャー・レクリエーションは、労働と対比する遊びの領域で展開され、豊かでゆとりあるくらしを支える重要な要素である。国民の誰もが生涯を通じてレジャー・レクリエーションサービスを楽しむことができる社会システムの構築が望まれる。本講義は、古代ギリシャからの命題である労働と余暇という本質的なテーマを問いつつ、レジャー・レクリエーションの概念、歴史、展開方法を概説する。	
	野外・レクリエーション指導論	本講義では、指導者(教育者)としての視点から、野外・レクリエーションに関する理論や実践について学習する。具体的な内容としては、指導者に求められる資質や能力、野外・レクリエーションの企画や指導、安全管理、評価等に関する理論について学習するとともに、国内外の様々な実践事例や施策等を取り上げ、野外活動やレクリエーションの動向についても学習する。	
	レクリエーションマネジメント	本講義では、レクリエーションマネジメントに関する理論や方法論について座学で学習するとともに、実際にレクリエーションイベントに参加し、実践経験を通じてイベント運営における組織管理や運営手法、安全管理、ボランティアの役割や必要性、参加者にもたらす成果について学習する。	
	生涯スポーツ(陸上競技)	学習要領に示されている体育で取り扱う陸上競技の内容は、中学校では「短距離走・リレー、長距離走又はハードル走、走り幅跳び又は走り高跳び」、高等学校では「競争、跳躍、投てき」となっている。この授業では、これらの競技種目の特性や規則を理解し、基本的な技術を習得したうえで、それらを学校体育の中で中学生や高校生にどのように指導すべきかを修得することを目標とする。また、健康づくりのためのウォーキングを効果的に指導する方法を習得することも目標とする。各種目において、特性・技術・練習方法・指導法・競技規則などを学び、グループ別に模擬授業を展開する。 (オムニバス方式／全15回) (上田／3回) 健康づくりのためのウォーキング指導法について学ぶ。 (重成／6回) 短・長距離、跳躍競技種目の指導法について学ぶ。 (林／6回) ハードル、投てき競技種目について学ぶ。	オムニバス
	生涯スポーツ(器械運動)	器械運動(マット、鉄棒、とび箱)で行われる基本技の技術構造を理解することによって、自己の習熟度を高めるとともに、技の指導に関する基本的な知識を得ることがねらいである。また、新たな技を学習することによって「できないものができるようになる」ということの意義を再認識することも本授業のねらいである。	
	生涯スポーツ(バレーボール)	バレーボールの基礎技術を確認し、応用技術について理解を深め、より実践的に展開する。自らの競技能力だけでなく、学習者および参加者の技術を向上させる指導力を身につける。そして、バレーボールのもつ本来の楽しさや深さを経験させられる知識と実践力を身につける。また、生涯にわたってバレーボールを通じた健康で豊かなライフステージを主体的に創り上げていくことができるような力を身につけたい。	
	生涯スポーツ(バスケットボール)	この授業は、教育現場でバスケットボールの授業を適切に行うための指導力と、ルールや運営方法などを学ぶことを念頭において行われる。実際に指導案を作成し、模擬授業と反省会を行う。指導内容ごとにグループに分かれ、模擬授業ではグループで役割分担をする。	

授 業 科 目 の 概 要			
(生涯スポーツ学部健康福祉学科)			
区 科 分 目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学 科 専 門 科 目	生涯スポーツ(ニュースポーツ)	ニュースポーツ、野外レクリエーション、コミュニケーションゲーム、アイスブレーキングゲーム、ホスピタリティ・トレーニングといった様々なレクリエーションの体験を通じて、レクリエーション支援の基礎的技術を習得するとともに、器具や用具の取扱方法について学習する。 また、このような実技を通して、仲間との協力や指導法を相互に学習しながらレクリエーションの楽しさを学び、理解を深める。	集中
	生涯スポーツ(エアロビック)	健康体力づくりを目的とした有酸素運動であるだけでなく、明確で多様な動きの身体表現と 技術の向上を楽しむスポーツとしても発展してきているエアロビックの基礎理論を学ぶとともに、基本動作を段階的に学習し、音楽にあわせてリズムカルに身体を動かす楽しさを体験する。エアロビックの基本・基礎技術を身につけることにより、生涯スポーツとして幅広く親しまれているエアロビックの特性を理解することをねらいとする。	
	生涯スポーツ(障がい者スポーツ)	スポーツの取り組みは、我々の生活を支えるものであり、特に余暇活動の充実においても重要な役割を果たしている。本講義では、実際に障がいのある人達が取り組んでいる様々な障がい者スポーツを実技体験することで、障がい者スポーツの楽しさを知り、障がいのある人の現在及び将来の生活の充実のためにスポーツが果たす役割や、競技を行う上での配慮事項について理解することをねらいとする。	
	生涯スポーツ指導演習(エアロビック)	生涯スポーツとしてのエアロビックの知識を広げ、エアロビックの指導者 として必要な基本動作の技術を高め、対象者や目的に応じ、安全性を配慮したプログラムを作成するための知識を深める。さらに、地域スポーツクラブ、公共施設、学校、民間企業などでの指導を目指し、指導実習を通して視覚的指導、言語的指導などの指導方法を的確に用い、指導技術を高めることを目的とする。	
	生涯スポーツ指導演習(水泳・水中運動)	水中運動は、水の特性である水温・浮力・水圧・抵抗など陸上環境と違う環境の中で運動を行うため、年齢を問わず健康づくりに有益な効果をもたらす運動として多くの人に親しまれている。また水泳においては技能の獲得が必要であり、安全管理を十分に行った高度な指導技術が求められる。安全で効果的な水泳・水中運動の指導技術を身につける。	
	健康栄養学	生涯にわたって健康を保持するには、乳幼児から高齢者に至るそれぞれの年齢ステージにあった健康教育が必要である。食品と栄養成分、栄養素の働きを知った上で、成長期においては発達にあわせた食生活全般、後半の青年期には社会的環境が大きく変化する中で自立した食生活を作り上げる能力を育てること。成長期後の最大の問題は生活習慣病の予防、続いて要介護となる危険の高い状態、すなわちロコモティブシンドロームの予防である。各ステージの食生活上の問題や実態を把握し、献立作成を試み実践できる能力を養うことを目的とする。	
	精神保健	精神保健とは、精神障害の予防と治療のみならず、人間の発達過程や社会生活における環境への適応に関わる学問であり、メンタルヘルスに関わる全ての人に必要な知識である。 ここでは、精神保健の概念や歴史について基礎的知識を得たのち、ライフサイクルと個別課題に沿って、主要な精神保健上の課題と対応について実践例を交えながら学ぶ。また、精神障害に関する基礎的知識、精神保健福祉制度などについて学ぶ。そして、講義を通して知識だけでなく、生涯にわたって関連する自らの精神保健について考える機会を持つことを目的とする。	
	救急処置	スポーツ活動、部活動においてアクシデントはいつでも起こり得る。誰もがその場面に直面し、ファーストエイダーとなる可能性がある。練習中や試合中に仲間や生徒が倒れた時、怪我をした時、どうしたらよいのか?適切な応急処置により、命を救うこともできるし、また傷害を最小限にとどめ、回復を早めることもできる。本講義では運動・スポーツに携わる者が最低限必要とする応急処置の知識を修得することを目的として、適宜実技を交えながら展開する。 (沖田孝一／15回) (吉田 真／15回)	
	運動処方	本講義では、健康維持・増進のための運動指導を専門的に行うことを考えている学生が、運動処方の基礎理論を身につけることを目的とする。健康づくりのための運動は競技スポーツと異なり、安全かつ効果的に行われることが必要である。特に身体的な問題を抱える実施者においては十分な安全管理が必要となる。本講義ではこうした安全かつ効果的な運動プログラムを作成、実践するための基礎理論を学んだ上で、有疾患患者の運動処方へと発展させる。	
	運動処方演習	健康づくりのための運動を指導するために必要な実践力を磨くため、それぞれの集団および個人に適した運動プログラムを処方する能力を身につける。 (オムニバス方式／全15回) (沖田／5回) 安全で効果的な運動処方作成のために必要な運動負荷試験の実験を学ぶ。 (小坂井／5回) 生活習慣病の予防や改善に関わる集団と個別に対応する運動処方作成の方法を学ぶ。 (上田／5回) 介護予防に関わる集団と個別に対応するための運動処方の方法を実践形式で学ぶ。	オムニバス
	体力測定評価	本講義では、一般人(子ども、青少年、成人、高齢者)、スポーツ選手を対象として、①健康に関する生活習慣病予防のための体力、②各年齢層に対する一般的体力、③高度化したアスリートの競技成績に関連する専門的体力についての測定方法とその結果の評価について学習する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(生涯スポーツ学部健康福祉学科)			
区 科 分 目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学 科 専 門 科 目	体力測定評価演習	この授業では、測定前に「どのようなねらいで測定するか」、「どこをどのように測るか」、「どのようにフィードバックするか」、そして測定するのに「必要な準備は？」について学習する。授業のポイントとして体力の意味を理解し、各項目の測定方法を実践し、最後に測定値の処理・分析後の評価が重要である。 (オムニバス方式/全15回) (加藤/4回) 健康に関連する一般の体力の測定・評価について学ぶ。 (上田/4回) 高齢者の日常生活の基礎となる体力および介護予防に関した体力の測定・評価を学ぶ。 (近藤・白川/7回) スポーツ選手の競技成績に関連する専門的体力の測定・評価を学ぶ。	オムニバス
	生活の中の介護福祉	介護を必要とする人の増加を背景に、介護および介護福祉に関連する様々な課題が問われている。それらの課題と関連させながら介護とは何かを考える。その上で介護援助の要素について学んでいく。介護および介護福祉の概念・理念から授業をスタートし、それらを踏まえて介護福祉サービスを提供するための基本的な考え方と技法を学ぶ。 本講義は、受講する学生が介護および介護福祉について、身近な事柄として関心をもって考えられることを目標とする。	
	生活習慣病概論	生活習慣病から身を守るための基礎知識として病気の原因、症候・症状、診断、治療・予防の基本について学び、深く理解する。授業は常にトピックを提供しながら進める。授業にはPCスライド、動画、プリントなどを用いる。	
	介護実践管理論	多様な介護実践の場（施設、在宅、グループホームなど）について理解し、その中で最善の介護を提供するために必要な組織の在り方、運営方法等介護管理について学び、実践の場で一人ひとりが考えられるようになることを目的とする。 (オムニバス方式/全15回) (干場有理子/7回) 在宅サービスの役割、ケアマネジメント、チームマネジメント、リスクマネジメントなどについて理解する。 (葉梨淑子/8回) 施設サービスにおける介護管理の方法と、職種間の連携、介護職員の健康・ストレス管理について学ぶ。	オムニバス
	医学概論	科学と医学の進歩により、例えばヒトの遺伝情報の全貌が明らかにされつつある。このような現代医学の進歩を踏まえて、健康と長寿をキーワードとし、介護や福祉に従事するために必要なからだのしくみを習得する。また心身機能と身体機能及び疾病や傷害について、人間の成長・発達と日常生活との関係を踏まえて理解する。さらに国際生活機能分類（ICF）に基づきリハビリテーションの概要を理解する。	
	医学知識	死・ターミナルケア・緩和医療などを念頭に、からだのしくみの基礎、すなわち身体の構造並びに生理機能、特に死にゆく人のこころとからだのしくみを理解するために医療の各分野を全般的に紹介し、現代に特徴的な疾病について理解することをねらいとする。特に死の捉え方、終末期から危篤の時期・死亡時の身体的・精神的諸問題の理解など、医療職との連携をふまえ、疾病をひろく理解できることを目標とする。	
	社会学	家族、企業、地域等々、現代社会は様々な領域において深刻な社会問題を抱えている。本科目では、これら生活上の諸問題が生み出された背景について、近代の主要な社会変動とのかかわりから理解しつつ、社会学者がどのような理論構築をしてきたのかについて講義する。さらに、いくつかの話題を例示しつつ、様々な問題解決に必要な福祉のあり方を考える機会を設け、学びを深める。	
	現代社会と福祉Ⅰ	わが国の福祉政策がどのような歴史的経緯を経て現在の姿になっているかを学ぶとともに、福祉政策の根幹となっている福祉の価値、哲学について自由主義との関係で理解を深める。さらに、今日において福祉政策が他の社会政策にどのような影響を及ぼしているか、教育、医療、雇用、住宅等の分野について具体的に学ぶ。	
	現代社会と福祉Ⅱ	わが国の福祉政策について、その理念、主体、方法、体系について学ぶ。さらに、わが国の福祉政策と他の福祉国家における福祉政策を比較検討し、わが国の福祉政策の特徴を理解する。そして、社会福祉士として福祉政策における相談援助活動がどのような役割を果たしているかを学ぶ。	
	社会福祉調査論	社会調査における調査者の恣意的な解釈を排除するためには、調査・分析の手続の可視化が求められる。本科目では、質的・量的社会調査の手順や分析方法等を講義しつつ、実り多く恣意的でない調査結果を得るための調査方法について学びを深める。また、調査対象者への配慮に欠ける調査の問題点を例示しながら、社会調査に求められる倫理についても学びを深める。	
	ソーシャルワーク概説Ⅰ	社会福祉士やソーシャルワーカーに求められる人間の多面的理解と尊厳の保持、自立、自律した生活を支える必要性について理解することを目的とする。さらに、ソーシャルワークの形成過程を踏まえつつ、相談援助に必要な社会福祉の理念について学ぶことを通して社会福祉やソーシャルワークの基本的概念を理解する。	
	ソーシャルワーク概説Ⅱ	ソーシャルワーク（相談援助）専門書の内容や専門職の倫理について我が国の資格制度と関連させながら、社会福祉専門職の役割や専門性をりかいかいすることを目的とする。また、地域におけるソーシャルワーク（相談援助）の考え方やその理論的背景について理解することをねらいとする。	

授 業 科 目 の 概 要			
(生涯スポーツ学部健康福祉学科)			
区 科 分 目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学 科 専 門 科 目	ソーシャルワーク論Ⅰ	ソーシャルワークの過程とそれに関わる知識と技術について理解する。ソーシャルワークにおける援助関係のあり方や面接技術の知識、展開過程などの理解を通して、援助関係を築く際に必要な人間関係形成のための基礎的なコミュニケーションや対人援助の技法を学ぶ。ソーシャルワーク実践のために必要な人間理解や、他者への情報の伝達に必要な基礎的なコミュニケーションに関する知識の習得を目的とする。	
	ソーシャルワーク論Ⅱ	ケースマネジメント及びグループを活用した相談援助の方法について学ぶ。ケースマネジメントでは、目的及び構成要素とそのプロセス、そして進めていく上で必要とされるコーディネーションや社会資源の活用と開発について理解する。グループを活用した支援では、目的とそのプロセス及びグループダイナミクスを活用した支援の方法について理解する。	
	ソーシャルワーク論Ⅲ	主にソーシャルワーク実践理論（実践モデル、アプローチ）の基礎について学ぶ。ソーシャルワーカーとして、対象や状況をどのように理解し、何に焦点を当て、どのように介入していくのかの根拠を与えてくれる非常に重要な科目である。この科目の学習を通して、専門職としての幅の広い実践ができるための多くの視点を身につけてほしいと考える。	
	ソーシャルワーク論Ⅳ	相談援助過程とそれにかかる実践的な援助技術の知識・技術についての理解を深める科目である。この科目においては、虐待や社会的排除・権利擁護などの具体的な事例を通して①事例分析・事例研究の意義や方法について、②実践におけるスーパービジョンやコンサルテーションの意義と目的、方法と留意点について、③相談援助過程における個人情報保護と留意点について、の三点について理解を深めることとする。	
	地域福祉論Ⅰ	これからの地域福祉において、社会福祉士は地域の福祉課題の把握や社会資源の調整・開発、ネットワークの形成を図る等、地域福祉の増進に働きかける役割等を適切に果たすことが求められるようになった。そこで地域福祉論Ⅰはまず地域福祉の基本的な考え方、新しい社会福祉システムとしての地域福祉の考え方や地域福祉の理念、地域福祉を担う主体の形成および公私協働の実践を学習する。	
	地域福祉論Ⅱ	地域福祉論Ⅰの内容を踏まえながら、地域福祉の実践主体である社会福祉法人やボランティア団体、専門職の役割と実際を学ぶ。また地域福祉を実施するための地域におけるネットワーク、社会資源の活用・調整・開発、福祉ニーズの把握方法、サービスの評価方法等、地域福祉の推進方法について理解する。	
	社会福祉行政・福祉計画論	地方分権の進捗とともに社会福祉も社会福祉法でその目的を「地域福祉」ということに規定され、全国一律の画一的な福祉ではなく、それぞれの地域の特性をいかした福祉の実現が求められるようになった。そこで、地域福祉の時代における市町村の役割と財政について、各種福祉計画の策定、地方自治の仕組み等を通して学ぶ。	
	社会福祉運営管理論	社会福祉基礎構造改革において、わが国の福祉サービスを市場を通して供給されることになり、サービスの供給組織は、社会福祉法人をはじめとする非営利法人と株式会社等による営利法人による福祉サービスの供給の多元化が進行するとともに、従来の施設入所型福祉から地域生活中心型の福祉（地域福祉）に転換してきている。そうした実態を踏まえて、福祉サービスの提供組織の実態、福祉サービス提供の理念、利用者保護等を踏まえて福祉サービスの経営等についての理論と方法を学ぶ。	
	社会保障論Ⅰ	社会保障の理念や経済的な機能について解説するとともに、社会保障を構成する諸制度（公的年金、医療保険、介護保険、労災保険、雇用保険、生活保護など）の仕組みについて解説を行う。これにより各制度により保障される生活の水準を理解することを目的とする。また、社会保障の財政事情を解説して、その規模と課題を理解することも合わせて目指す。講義形式で展開し、現代社会とのつながりを理解するため適宜、新聞や専門誌の記事およびVTRを紹介する。	
	社会保障論Ⅱ	社会保障の歴史的な展開について理解を深めることを目的とする。単に日本の社会保障の歴史にとどまらず、ヨーロッパおよびアメリカにおける歴史的展開過程にも言及し、社会保障の特質を解説するとともに、各国の差異とその背景についても理解を深めることを目指す。講義形式で展開し、現代社会とのつながりを理解するため適宜、新聞や専門誌の記事およびVTRを紹介する。	
	高齢者福祉論Ⅰ	高齢者福祉における支援活動について、各種サービスの体系及びそこに関わる社会福祉専門職と相談支援機関、サービス提供機関について理解する。そのうえで、介護ケアの理念や対象、終末期ケアのあり方についても理解することをねらいとする。さらに地域ケアシステムの形成と課題、施設と在宅それぞれのケアの歩みと現状と課題など、高齢者保健福祉の実践について学ぶことをねらいとする。	
	高齢者福祉論Ⅱ	現代社会における高齢者問題について、人口構造、家族形態、社会参加等の変化などから理解を深める。また、高齢者福祉の歴史及び発展過程について理解を深める。さらに、高齢者福祉の理念、目的を抑えつつ、相談援助に必要な高齢者福祉のニーズ、介護に関連する各種法制度について理解することをねらいとする。	
	障害者福祉論	障がい者の支援はライフステージ全域にわたり、その領域も福祉、保健医療、労働、教育等多岐にわたる。まずは障がい者（児）支援の基本的理念を理解し、障がい者（児）の生活実態や生活ニーズを把握する。そして、障がい者福祉の発展過程および障がい者に関わる法や施策について概観する。そして障害者総合支援法における障害福祉サービスについて具体的に学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要 (生涯スポーツ学部健康福祉学科)			
区 科 分 目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学 科 専 門 科 目	児童・家庭福祉論	児童福祉は、子どもの健全育成をテーマに、家庭の支援も含めて子どもが育つ環境の整備等をも対象とするものになってきているが、そうした歴史的経緯と現在の理念、施策について学び、子どもをめぐる課題について理解する。さらに、少子化の問題にも取り組み、子育てを支援する仕組み、働き方等の社会のシステムと今後の方向性について学ぶ。	
	公的扶助論	長びく不況の中で貧困格差が大きくなり、様々な社会問題が浮上してきている。ワーキングプア、ホームレス、孤立死等の事象を踏まえて最後のセーフティネットといわれている生活保護制度を中心に公的扶助制度がそうした社会問題にどのような役割をはたしているか、を歴史、仕組み、実態等から学び、これからの貧困問題について考える。	
	医療福祉論	保健医療分野におけるソーシャルワークについて、その理念、価値、視点を学ぶ。保健医療の歴史的背景や制度・政策動向、社会環境の変化を理解することを通して、疾病や障害を負うことによって生じる生活の諸問題について学び、この分野を入口とした他福祉分野との関連についても理解を深める。また、相談援助過程で必要となる医療保険制度や保健医療サービス、さらに実践現場における専門職の役割と実際、他職種協働についての理解を深める。	
	就労支援論	障害者、生活保護世帯、母子世帯等に対して就労による自立は喫緊の課題である。本講義では、就労することの意義および社会福祉士による就労支援の理念と意義を十分理解した上で、①相談援助において必要となる視点、各種の就労支援制度、②各領域別の就労支援の課題および展開方法、③就労支援に関わる専門職、組織、団体および実践（連携等）について理解することを目標として講義を展開する。	
	権利擁護と成年後見制度	今日の契約社会において、自ら契約することが難しい人々や誰かの助けがあれば日常生活を営むことができる人々に対しての「権利を護る」ということについて学ぶ。社会福祉基礎構造改革以降、福祉サービス利用者は「利用契約制度」が中心となった。相談援助活動において、利用者の「権利をいかに護るか」、「自己決定をどのように尊重するか」は重要な課題である。権利を護るにはどのような制度があり、その制度を利用するにはどのような方法があるのか等について理解することを目的としている。	
	司法福祉論	罪を犯した人たちが一定の刑事司法手続きを経て社会に戻ってきた際の、社会の受け入れが問題となっている。就労、住居、人とのつながりが必要不可欠であり、司法と福祉の連携が重要となる。本講義では、少年犯罪や刑事司法の法的な手続き、処遇、活動する組織、団体及び専門職について理解するだけでなく、福祉の支援の必要性と相談援助活動、関係機関や専門職との連携など支援の実践について理解することを目標として講義を展開する。	
	相談援助演習Ⅰ	社会福祉士及び介護福祉士に求められる相談援助に係る知識及び技術について学ぶ。演習を通じて自己の理解と他者の理解、基本的な面接技術を実践的に習得する。また、社会福祉専門職に求められる専門的な相談援助技術について理論的に理解しながら、意図的に専門的知識や技術を用いることができるようになることをねらいとする。	
	相談援助演習Ⅱ	社会福祉士に求められる相談援助の学習の中で、本演習では実際の援助場面を想定しながら相談援助過程について理解する。また講義で学んださまざまな概念と演習の経験を通して獲得した援助技術等を結び付けられるような学習を行う。相談援助の過程や展開方法を理解し、実践の基盤となるソーシャルワークの概念や知識、技術や理念との関わりを理解することを目的とする。	
	相談援助演習Ⅲ	地域福祉を実際に地域で実施していくために必要な知識、技術、理念などを学ぶ。地域福祉のキーワードとしては地域アセスメントや地域組織化の展開過程および地域福祉計画と地域福祉活動計画を理解する機会となる。そのため、この科目は「コミュニティワーク」を中心とした演習を行う。	
	相談援助演習Ⅳ	相談援助の対象は、多岐にわたるとともにその内容も様々なものである。ソーシャルワーカーとしての援助も個々のケースに即して柔軟に対応するとともに様々な専門職と連携し総合的かつ包括的に展開することが求められる。本演習では、具体的な事例をもとにしてそうした総合的かつ包括的な援助のあり方について実践的に習得する。様々な事例に応じたニーズを把握し、ソーシャルワーカーとしての対応や援助を理解し、社会資源やネットワークの活用の仕方を習得することを目的とする。	
	相談援助演習Ⅴ	相談援助実習で得た個別的体験を一般化し、実践的な知識と技術の定着を図る。すなわち、面接技術や利用者理解の内容について匿名化された具体例を用いて検討し、自己決定やエンパワメントに基づくソーシャルワーク実践について考え、専門職としての価値観や倫理観を養成する。演習形式で展開し、グループワークを通してソーシャルワークについての理解を深める。これは同時に、グループワーク自体を実践的に学ぶ機会でもある。	
	相談援助実習指導Ⅰ	相談援助実習の意義について、講義やグループワークだけでなく、社会福祉施設・機関の見学等も通じて学ぶ。福祉サービスを必要としている利用者像について理解し、相談援助実習を行う社会福祉施設・機関の役割や意義について学ぶ。さらに相談援助実習に向けて具体的な事前学習の進め方や実習目標および実習課題を設定できるようになることをねらいとする。支援を必要としている人と社会福祉施設・機関の役割を理解し、社会福祉士はどのような支援を行っているのか説明できるようになることを目的とする。	
	相談援助実習指導Ⅱ	前期は相談援助実習の目的を理解して必要な知識と技術を備えて相談援助実習に効果的に取り組むことができるように準備することを目的とする。後期は実習の報告書をまとめることを最終目的として、実習中に生じたままになっていた問題の解決を図るとともに、事例研究の発表などを通して実習体験を学生間で共有することにより、個々の実習成果を自覚的に把握することを目指す。通年による指導を演習形式で展開する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(生涯スポーツ学部健康福祉学科)			
区 科 分 目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学 科 専 門 科 目	相談援助実習	実習先における23日間以上かつ180時間以上の相談援助実習を通して、相談援助に関わる知識と技術について、具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得することを目的とする。そして、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理について理解を深め、自己の課題を把握する能力を習得する。また、関連分野の専門職との連携の取り方とその内容について実践的に学ぶ。実習指導者による指導は適宜行われ、さらに担当教員が週1回指導を行う。	集中
	高齢社会の街づくり	今日の人にやさしい福祉の街づくりについての国及び自治体の制度・政策について学ぶ。特に重要な公共的建築物の福祉環境整備調査項目については、大学のキャンパス内での事例の検証とバリアフリー・ユニバーサルデザインについての企業の考え方をグループで協同して調査・研究を行い、その成果をポスターにまとめて合同で発表する。また、住宅の福祉環境整備項目についてはホームワークとして各自がレポートを作成し提出する。	
	介護福祉と生活文化	人を理解する上で欠かすことのできない生活文化について、歴史、宗教、哲学、死生観、通過儀礼など多方面から学ぶことにより、人の暮らしと生活を支える介護福祉との関係について学びを深める。毎回の講義やディスカッションを通し、生活文化とそれを支える介護福祉について学びを深める。さらに、介護福祉利用者の個性や多様性についての理解と考察を行う。 (オムニバス方式／全15回) (佐藤克之／12回) オリエンテーションを行い、受講方法を理解する。人間の生活と宗教、宗教とケアの歴史、昭和の歴史、文学と介護、言葉の生活文化、生活の中の哲学、余暇活動と社会参加、5つの不死感・自己感と死の倫理、スピリチュアルペインとスピリチュアルケア、スピリチュアリティの3本柱について学ぶ。 (八巻貴穂／3回) 生活文化と介護福祉、日本人の通過儀礼、季節の暦と年中行事について学ぶ。	オムニバス
	リハビリテーション論	リハビリテーションの歴史を概観し、リハビリテーション計画の立案に関わる事項やリハビリテーションの技術、方法、知識などの修得を図る。 高齢者や障害者・児などの各ライフステージにおけるリハビリテーションの特徴や主要疾患の障害像、問題の捉え方、アプローチの実践について理解を深める。 加えて、福祉機器の活用や環境調整の進め方、関連社会資源や制度の利用などを含む包括的なリハビリテーションの援助技術を学習する。 (オムニバス方式／全15回) (須鎌康介／5回) リハビリテーションの歴史的背景を概観し、その概念と基本原則を学ぶ。対象に応じたリハビリテーションの諸段階と、関連する社会資源を関連付けて、総合的サービス体系のあり方を理解する。 (大須田祐亮／7回) リハビリテーションの対象となる障害についてその程度と影響を理解する。専門職としての連携の在り方を学んだ上で、リハビリテーション計画の作成に取り組む。 (小玉武志／3回) 講義と事例研究を通して、リハビリテーション過程の実践を学ぶ。	オムニバス
	レクリエーション実技	「人間が人間らしく生きるため」の生活支援として、衣・食・住のみならず「楽しく、生きがいの感じられる生活支援」に欠くことのできないものとして、レクリエーション活動援助を位置づける。レクリエーションについての意義および活動の実践を理解し、計画・実践能力の向上を体験的に習得することにねらいをおく。そのために必要な、自らも「楽しむ力」を高め、援助方法を演習を通して身につける。	
	食生活学	食生活を営むうえで必要な食事の基礎から、実際の介護現場で実践できる食に関する知識、および調理技術について学ぶ。食事は介護を受ける側にとっては大きな楽しみであり、QOL (Quality of life 生活の質) が要求される。授業では食事をおいしくいただくためには、身体の生理的な要因や外的・物理的な要因が大きく関与することを学び、その人のライフヒストリーを考慮した食事計画を立案し、自立に向けた食事の介護・支援の食生活のあり方を考究する。	※演習
	衣生活学	衣生活を営むうえで必要な衣服の基礎知識から、実際の介護現場で実践できる衣に関する技術について学習する。授業では現代の衣生活の現況から衣服の快適性について理解し、安全で機能性のある衣服について考える。また衣服素材や洗濯、衣服製作など自立に向けた衣生活支援技術を学ぶ(演習含む)。	※演習
	住生活学	人にやさしい福祉の街づくりの中で、国の生活福祉空間づくり大綱の考え方は、今日の福祉環境整備の基礎となっている。特に自立に向けた住環境整備は重要である。この授業では、寒冷地での高齢者等の住まいなどの相談に役立つバリアフリー・ユニバーサルデザイン等の基礎的な知識を学び、関係職種と連携して図面及びスケッチ、プレゼンテーションなどで打ち合わせができる基礎的な生活支援のための能力を身につける。	
	老年医学	人口の高齢化にともない、高齢者の介護・福祉は社会的な関心事となっている。また老年期疾患は、症状も治療も若年者の疾患とは著しく異なる。高齢者の介護・福祉の諸課題に対応するためには、高齢者の身体的機能の特徴を知ることが重要である。単なる衰弱ではない老年期の発達と成熟、老化に伴うこととからだの変化と日常生活の関係などを通して、本教科目では老年期に特徴的な心身機能の変化や疾患の様態を教授する。	
	認知症論	認知症について様々な角度から論じ、認知症の方とともに生活する社会を考察する。認知症のある方の現状と医学的理解、家庭生活、社会生活について論じ、地域社会におけるサポート体制についても理解を深める。認知症のある方の日常生活、家族の思いに対する理解を深め、環境面への働きかけや人間関係形成を含め、尊厳をもち人生を継続していく支援のあり方を学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要 (生涯スポーツ学部健康福祉学科)			
区 科 分 目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学 科 専 門 科 目	認知症ケア論	認知症の中核症状とBPSDが及ぼす生活面への影響を理解し、認知症の方に適切な支援を提供するためのアセスメントの視点、認知症の特性に応じた支援方法を理解することを目的とする。認知症の原因疾患による特徴を理解した上での適切な支援方法を学ぶ。あわせて、認知症の方の家族に対する支援の方法や、地域社会とのつながりの必要性と地域における支援体制の在り方について学ぶ。	
	障害のある人の理解	障害の原因疾病を理解し、障害を構造的に理解したうえで、障害のある人の生活を事例から学ぶ。障害のある本人のみでなく、家族を含めた周囲の環境に配慮する視点を習得する機会とする。また、生活障害に対する介護のあり方をICFの理念に即して洞察する姿勢を学ぶ。多様な障害について医学的側面から理解するとともに、地域における他職種連携及び協働について学び、実践的チームアプローチによる家族支援のあり方を洞察する。	
	生活生理学	「食べる」「移動する」「眠る」などの日常生活行動をするためには、こころとからだがどのように影響し、成り立っているのかを理解することが必要となる。人体の構造や機能を理解し、介護の視点から技術提供と生活支援の科学的根拠を学んでいく。介護福祉を必要とする対象者の日常生活に基づく行動とこころのしくみの視点から理解するとともに、介護福祉の生活支援について科学的根拠を修得することを目指す。	
	高齢者心理学	加齢についての基礎知識と心理的特性を学び、高齢者の身体と心の理解を深めることを目的とする。加齢によって身体的・精神的・社会的にどのような変化があるのか、心理的にどのような影響を与えるのか、そのためのどのような対応が求められるのかについて、事例をもとに解説する。さらにこれからの高齢社会を生きていく上で何が必要なのかについて、考察する。到達目標：(1)加齢・老化の与える変化と心理的影響について、理解する、(2)老年期のパーソナリティの変化と適応について、理解する、(3)老年期の心理的变化と精神障害に関する知識を習得する、(4)高齢者の死と心理的援助について、理解する。	
	健康福祉専門職演習Ⅰ	介護福祉士、社会福祉士を目指す学生は国家試験の合格が必須となる。そのためには、これまでの通常を通して培った知識を確実なものとし、さらに国家試験の出題傾向、出題様式等を理解したうえで、試験対策を行う必要がある。本講は、両国家試験における各科目の出題傾向を確認し、過去問題や模擬問題を実際に解きすすめ、解説しながら知識を確実にできるよう受験に向けて実践的な学習を行う。	
	健康福祉専門職演習Ⅱ	健康福祉専門職演習Ⅰでの成果を確認しつつ、さらに学習をすすめる。具体的には、実際の受験を想定した模擬試験を行い、各自の苦手科目やさらなる学習のポイント等を確認する。また、できるだけ多くの問題を繰り返し解くことで、問題を早く正確に読解し、正答を導くための思考力を身につける。国家試験合格にむけて、豊富で正確な知識の獲得および本番での平常心と健康管理方法を習得することを目指す。	
	健康産業施設実習	健康づくりのための運動や身体活動の増強を提供・支援する現場でのさまざまなケース（性、年齢、身体状況、嗜好など）に対応できる実践応力を身につけることを目的とする。活動現場における役割について実践を通して理解し、さまざまなケースを体験するなかで、前向きに対応する力、応用する力、考える力を養う。	集中
	福祉実践実習	4年生が今後目指すべき福祉領域の検討や福祉職としての志望動機を見極め、スムーズな就職活動が実施できることを目的として実習を実施する。本科目は3年次での相談援助実習をはじめさまざまな社会福祉士養成科目をベースとして社会福祉士に求められる力量を高めて専門職として活躍できる人材を養成する。この科目は社会福祉士として就労することを希望し、3年次で相談援助実習を終了している学生が履修することができる。	一部集中※演習
	専門演習Ⅰ	専門演習Ⅰは選択した学問領域の内容及び研究の基礎を学習することを目的とするが、生涯スポーツ、健康、福祉の問題意識を持つことができるように、教員、学生双方の協力によってゼミナールを運営しながら進める。 (小田史郎) 健康づくりを運動と休養の2つの視点からとらえる。特に良好な睡眠を得るための運動方法を探ることを最大のテーマとし、専門演習Ⅰでは、文献検討による基礎知識の習得や生理測定法の獲得を目指す。 (佐藤克之) 福祉での重要な視点に『人にやさしい「すまい・もの・まち」づくり』がある。専門演習Ⅰでは、地域性に重きを置き、産学官連携による地域の創造、北海道各地域の課題解決のための資料の収集を行う。 (谷川松芳) 生涯学習の基礎知識と仕組みについて学ぶ。特に、生涯学習と社会教育の関連構造について学び、人々の生活と学習の関連性を探求する。さらに、地域社会におけるまちづくりの役割について学習する。 (林恭裕) 北海道における地域福祉振興について、様々な視点から考察する力を身につける。専門演習Ⅰでは、文献検索を学び直し関連の文献・資料の収集と文献購読を行なう。文献購読により、研究方法の基本的能力を修得する。 (藤原素子) 介護福祉サービスを必要とする利用者の生活について様々な角度からとらえ、介護福祉に関連する課題について掘り下げていく。対象者・生活形態などは学生自身が決定し、関連する文献・資料を収集し文献購読をする。	

授 業 科 目 の 概 要			
(生涯スポーツ学部健康福祉学科)			
区 科 分 目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学 科 専 門 科 目	専門演習Ⅰ	(尾形良子) 専門演習Ⅰでは地域福祉へのより深い関心をもつための動機付けとして、自らが生まれ育った地域のボランティア団体や社会資源等を調べることから始める。また同時に経験的に得てきた自分の地域の問題や課題を意識化し、資料や文献により情報を集め、読み込む等を経て言語化できるようにする。 (梶晴美) 障がい児者の生活課題とその支援のあり方、実践課題について多角的に捉える力を身につける。専門演習Ⅰでは、当事者との交流やボランティア活動を通して、障がい者の地域生活について理解を深める。また、文献や資料から情報を読み取り、理解し、考え、それらを人に伝える力を養う。 (黒澤直子) 相談援助について理解するため、社会福祉に関するさまざまな領域においてどのような専門職が支援を行っているか学ぶ。文献による事例や、実際の社会福祉施設・機関の見学を通して具体的に学ぶことを目的とする。 (小坂井留美) 地域社会での運動・スポーツ実践について、背景要因とともに考える。健康・体力づくりに関する心身・社会環境要因について考えを広める。文献検討から、当該分野の研究動向や基本的な研究手法を知る。 (杉岡品子) 人間が健全な生活を送るために必要な身体と心について、多角的な視点（心身のバランス、ヘルスケアとメンタルケア等）でとらえ、その課題と対応について学ぶ。専門演習Ⅰでは、文献購読・検討によって基礎知識の習得を目指す。 (久末久美子) 「高齢者福祉」「地域福祉」を基本テーマに、その考え方や支援・ケアの実際、関係諸機関の連携などを学ぶ。専門演習Ⅰでは、学生が選択したテーマに基づく文献購読を通して、基本的な理解を共有する。 (本間美幸) 社会福祉・介護福祉のタイムリーな課題を取り上げた文献を選択して、文献購読を行なう。文献を読むこと、要約と学びを整理してレジュメを作成すること、報告することなど、ゼミナール学習の基本を学ぶ。 (山本麻由美) 社会問題に対するアンテナを張ることを目的として、学生には持ち回りで担当者を決めて新聞記事の一つ見つけて持ってきてもらう。その問題についてどのように考えるか、どのような見方ができるかということについてグループワークを行う。 (吉田修大) 社会福祉施設及び高齢者福祉の実践のあり方について理解を深める。特に施設福祉（レジデンシャルソーシャルワーク）の基本的な考え方の理解を踏まえ、施設福祉実践における現状と課題を理解することを目的とする。 (佐藤郁子) 介護、福祉に関する現状や課題を様々な視点から考察する。特に高齢者の生活にかかわる介護のあり方について文献検討により、基本的知識や研究方法等について学びを深めることを目指す。 (八巻貴穂) 文献購読を通して社会福祉、介護福祉を取り巻く様々な課題についての理解を深める。購読した文献の発表により、発表資料の作成方法、発表方法、討議の方法などについて学ぶ。	
	専門演習Ⅱ	専門演習Ⅱは専門演習Ⅰで学習した内容を深め、さらに種々の課題を確認しながら課題解決のために必要な基本的な知識・技術を習得する。 (小田史郎) 専門演習Ⅰで身につけた健康学並びに睡眠学に関する基礎知識と生睡眠測定に関する実践力をもとに、運動・睡眠に関連する基礎的な実験研究を行う。得られたデータをどう分析し、まとめるかについても学ぶ。 (佐藤克之) 専門演習Ⅰで収集した資料を基に、各自が地域を選定し、既往の研究も含めた、より詳細な資料の収集を実施し、さらに分析方法・研究のまとめ方についても学ぶ。 (谷川松芳) 専門演習Ⅰで身につけた生涯学習に関する基礎知識をもとに、生涯学習及び社会教育現場を調査し、具体的な実習計画を作成する。特に、小学校の通学合宿事業による地域づくりについて研究し生涯学習と地域づくりについて研究する。 (林恭裕) 専門演習Ⅰで獲得した社会福祉・地域福祉や社会福祉協議会などの知識を元にして、学生各自の関心テーマを探り、フィールドワークへと発展させる。文献・資料での学びとフィールドワークを関連づけて考察をする力量を身につける。 (藤原素子) 2年半の講義・演習・実習の学びから関心のあるテーマを見出し、問題の所在・背景、課題絞り込みの過程を、文献検索やレジュメ作成などを通して行う。本演習の内容は卒業研究へ繋げていくものとする。	

授 業 科 目 の 概 要			
(生涯スポーツ学部健康福祉学科)			
区 科 分 目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学 科 専 門 科 目	専門演習Ⅱ	(尾形良子) 専門演習Ⅰを踏まえ、自らの地域の課題や問題から関心のある事柄を選択して他地域の状況を調べてみる。他の地域と比較する中で認識した問題や課題に影響するキーワードを複数探し、さらに文献等により理解を深めていく。 (梶晴美) 専門演習Ⅰの学びを基礎として、障がい児者を取りまく生活環境と課題をより深く学ぶ。当事者との関わりから捉えた課題や問題意識を他の文献・資料を用いて調べ、理解を深めていく。文献収集の方法、まとめ方を学ぶ。 (黒澤直子) 相談援助に関する知識の理解を深め、社会福祉の専門職がどのような支援を行っているか具体的に学ぶ。文献研究や社会福祉実践からの学びを通して支援のあり方について検討を行う。 (小坂井留美) 専門演習Ⅰで習得した知識を基に、いくつかの健康・体力づくりに関わる課題や要因を設定し、その情報取得と解明に向けた調査・分析に取り組む。実践的に研究課題の設定や手法の理解を進める。 (杉岡品子) 専門演習Ⅰで習得した基礎知識をもとに、各自で身体と心に関する自らの興味・関心や問題意識の方向性を定める。そして、関連する先行研究の検討を行い、今後の研究テーマ設定につなげる。 (久末久美子) 専門演習Ⅰの学びをベースに、社会福祉及び関わる諸機関と他職種の連携と共に、地域住民の自主的福祉活動にも視点を広げ、フィールドワークに取り組む。その過程で、様々な研究方法について学び、卒業研究の準備段階とする。 (本間美幸) 専門演習Ⅰの学習を基礎として、「高齢者の生活する場」を共通テーマに学んでいく。ユニットケア型の特別養護老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅について、制度や現状を概観して課題を考察する。 (山本麻由美) 社会保障論ⅠとⅡの履修を前提として、社会問題と制度との関連について学ぶ。専門演習Ⅰから引き続き新聞記事を用いるが、文献講読も取り入れて少なくとも1冊は読破する。履修生すべてに事前の準備を求める。 (吉田修大) 専門演習Ⅰで身につけた社会福祉施設及び高齢者福祉の実践のあり方を踏まえ、施設福祉実践における現状と課題を検討することを目的とする。 (佐藤郁子) 専門演習Ⅰで学習した内容をさらに深めるとともに、各自の興味ある内容を中心に進めていく。レポート作成や発表、討議等を通して今後の研究課題を見いだすことを目指す。 (八巻貴穂) 専門演習Ⅱでの学びを踏まえ、学生がそれぞれ興味あるテーマの研究論文の検索、講読、発表、討議を行い、学生間の学びの共有と専門演習Ⅲに向けての準備を行う。	
	専門演習Ⅲ	専門演習Ⅲは専門演習Ⅰ、Ⅱで学習した内容、身につけた実践力をもとに、選択した学問領域における課題解決に向けた取り組みを行う。 (小田史郎) 文献検討により現代社会が抱える運動・睡眠に関する課題を把握する。その上で、これらの解決を目的としたテーマの研究計画を立て、これを実施する。得られたデータを分析し、これをまとめる。 (佐藤克之) 専門演習Ⅱで収集した資料を基に、各自が選定した地域の課題解決となる提案を行い、プレゼンテーション及びディスカッションの技能を学ぶ。さらに産学官連携による、研究発表・報告を企画・実施する。 (谷川松芳) 演習Ⅰ、Ⅱで学習したことを基に生涯学習と社会教育活動による地域づくりについて検討し具体的な調査活動を行う。地域調査から課題を把握し今後の地域づくりや生涯学習、社会教育などの役割と使命などについて提言し、まとめとする。 (林恭裕) 各自の関心テーマに沿って先行研究論文を検索し、レジュメ作成と報告を積み重ねる。各自のフィールドワークと関連付けて報告する展開とし、卒業研究へとつなげる。 (藤原素子) 各自の関心テーマに沿って先行研究論文を検索し、レジュメ作成と報告を積み重ねる。受講生同士のディスカッションから、各自のテーマを掘り下げ、卒業研究へと発展させる。 (尾形良子) 自分の関心のある地域福祉に関わる問題、課題群の中から、研究してみたいテーマを検討する。その後、卒業研究に結び付けられるように指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要			
(生涯スポーツ学部健康福祉学科)			
区 科 分 目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学 科 専 門 科 目	専門演習Ⅲ	(梶晴美) フィールドワークの体験を踏まえ、各々が関心をもったテーマについて、先行研究の文献調査を行い、レジュメの作成と報告、ディスカッションを行う。互いの報告において、物事を多面的に捉えて考えることを習慣づける。また、卒業研究へつながるよう問題意識を明確にしていく。 (黒澤直子) これまでの学びを踏まえ、ソーシャルワーク実践における専門職の役割と課題について理解する。ソーシャルワーカーへの聴き取りや実践の場への訪問等の具体的方法を取り入れた課題解決に向けた取り組みを行う。 (小坂井留美) 文献を読み進め、当該分野で興味のある問題や着目した事象の解明に有効な研究方法を検討する。実際に研究テーマを設定し、計画を立て、結論を導くまでのプロセスを行う。 (杉岡品子) 専門演習Ⅱで設定したテーマをあらためて見直す。そして、テーマの研究計画を立て、調査を実施する。得られたデータ分析・解釈を行い、まとめプレゼンテーションを行う。 (久末久美子) 「高齢者福祉」「地域福祉」を基本テーマに、各自の関心テーマに沿って先行研究論文を検索し、レジュメ作成と報告を積み重ねる。受講生同士のディスカッションから、各自のテーマを掘り下げ、卒業研究へと発展させる。 (山本麻由美) 現代の社会問題と社会保障制度が抱えている課題について文献を用いて勉強し、卒業研究として取り上げるテーマを絞り込む作業を丁寧に行う。その上で、資料を検討した結果をまとめる。学生には問題意識を持って取り組む事を求める。 (吉田修大) 文献研究及び施設見学等を踏まえ、各自研究テーマを設定し社会福祉施設及び高齢者福祉のあり方をまとめる。 (佐藤郁子) 専門演習Ⅱの学びを活かし、各自の研究課題に沿って文献検討やレポート作成や発表を通して今後の研究計画の準備を進めていく。必要な場合には研修会参加、施設見学など実践的取り組みも目指す。 (八巻貴穂) 学生個々の関心領域により、先行研究、参考文献等の検索、講読、発表、討議を行う。研究テーマを決定し、研究方法の検討を行い、研究計画を立案し、調査等の実施、データの分析、まとめの方法を学び実践する。	
	卒業研究	本科目では、健康づくりおよび福祉に関する学問分野の専門性を高めることを目的として、研究活動に取り組む。設定したテーマに関する先行資料の調査、課題の洗い出し、そしてそれらの解決策の探求を通じて、実践的な課題解決能力を養う。各自で取り組んだ研究を論文形式またはそれと同レベルの形にまとめ、発表会を通じてその成果を発表する。	
	介護概論Ⅰ	本講義では、介護および介護福祉の概念を様々な角度から学び、介護福祉の意義・介護福祉士の役割と専門性を考え、介護福祉サービス利用者の尊厳の保持と自立支援の重要性を認識する。あわせて、介護福祉士の社会的な役割を、社会福祉・介護福祉の歴史を踏まえて学んでいく。介護福祉士を取り巻く状況や背景を、介護の歴史を通して理解し、社会情勢と関連付けて考える視点を獲得することが目標である。	
	介護概論Ⅱ	介護を必要とする高齢者、障害を持つ人の生活とそのニーズを理解し、生活の場に応じた支援を提供する方法を理解することを目的とする。介護実践の場におけるケアマネジメントの視点やチームケア、多職種連携の方法を考える。また、リスクマネジメントや介護従事者の健康管理など、安全安楽な介護方法を理解する。	
	生活学概論	私たちは、日々、つづがなく生活を営んでいるが、一昨年の大震災を例にとっても“生活すること”は、常にリスクと隣り合わせであるという一面がある。この授業では様々な生活の基礎(家庭生活、家庭経済、衣・食・住、環境等)を学びつつ生活リスクについて考え(広く、戦争や災害から、個の加齢に伴う疾病や障害も含む)よりよく生活していく方法について、具体例を通して学ぶ。 (オムニバス方式／全15回) (小野寺典子／11.5回) 『生活とは何か』という生活学の基礎的内容を学生自身の生活を踏まえて理解する。災害や不況など生活のリスクにも目を向けて、家庭とそれを取り巻く地域社会について学ぶ。各論として、食生活・住生活を取り上げる。 (青山重美／3.5回) 衣生活の側面から生活を考え、高齢者・障害者の被服についてその役割や素材について理解する。まとめとして、生活学の学びのグループ学習に取り組む。	オムニバス
	介護技術演習Ⅰ	介護福祉の基本となる人間関係の形成、コミュニケーションについて、人間関係形成の基本的視点から、また介護専門職の視点から考えていく。日常的なコミュニケーションのとり方から介護専門職としてのコミュニケーションの方法を理解し、様々な対象との実践に活用する基盤を学ぶ。また介護専門職に求められる観察・記録・報告を理解し、チームにおけるコミュニケーションを学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要			
(生涯スポーツ学部健康福祉学科)			
区 科 分 目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学 科 専 門 科 目	介護技術演習Ⅱ	介護技術の原理・原則を理解し、基本的な介護技術を習得することを目指す。介護技術は基本的な方法論を個別的・場面的に応用することの繰り返しで、基本は介護・援助を必要とする対象者の人格・考え・要望を尊重し、介護者の知識と技術を統合して援助することにあるため、その創造的で個別的なプロセスを学ぶ。実践場面でのアセスメントに基づく考察力や展開力を身につけることを目指す。	
	介護技術演習Ⅲ	介護の知識と技術を統合し、生活障害のある人々の生活を支援するために必要な基本的な介護技術を学び、利用者個別の心身の状況に応じた適切な介護技術を提供するための考察力、総合的な実践力を習得することを目的とする。介護技術の原理原則を踏まえて、利用者の尊厳を尊重した、自立支援の方法を理解する。	
	介護技術演習Ⅳ	本講義では、介護を必要とする人がどのような状態であっても、生を実感しその人らしく生活することを支援するための、考察力・実践力を身につける。介護を必要とする人々の年齢的特性・障がいの種類による特性を理解したうえで、生活を豊かにするための支援方法を演習を交えて学ぶ。 利用者の状況を共感的に理解しICFの概念に基づくアセスメントから、生活の豊かさを提供する介護サービスについて考察および実践する能力を養う。	
	介護技術演習Ⅴ	情報器官に障害がある方の情報保障の意義と実際の支援方法を理解する。 (オムニバス方式／全15回) (梶晴美／3回) 情報器官に障害がある方の情報保障の意義と実際の支援方法を理解する。盲ろう者の生活について理解する。 (鼻和暢子／6回) 視覚障害のある方の生活の理解を中心に、暮らしやすい環境づくり、外出時のガイドヘルプの方法を体験的に学ぶ。コミュニケーション手段としての点字の基本を学ぶ。 (鈴木真由美／6回) 聴覚障害のある方の生活理解を中心に、聴覚障害者を支える制度について理解し、コミュニケーション方法としての手話の基本を学ぶ。	オムニバス
	介護過程Ⅰ(基礎)	本講義では人間の尊重を基本とし、介護福祉士と利用者が対等の立場で関わる介護の過程について学ぶ。介護過程は、日常生活動作に関わる身体的支援はもちろん、社会的な側面および心理的な側面からも生活支援を行う過程であり、総合的視点で利用者の生活を支援する過程であることを理解する。また介護過程の理論を理解し、事例演習から、根拠に基づいたアセスメントを実施する能力を身につける。	
	介護過程Ⅱ(高齢者)	高齢者への生活支援活動の展開方法である介護過程を情報収集の視点とアセスメントを基本において学ぶ。様々な状況にある高齢者に対して、適切な介護実践を導く思考過程が展開できるよう、他教科の学びを活用して理解を深める。事例・映像などから具体的高齢者像を自立的に生きる個人として理解し、支援に必要な情報収集とアセスメントの視点、介護過程の展開方法を演習を通して学ぶ。	
	介護過程Ⅲ(身体障害者)	脳血管障害や脊髄損傷などの運動機能障害、重症心身障害についての基本的知識を学び、障害の特性に応じたアセスメントの視点を理解し、生活課題や支援方法について考えることができるようになることを目的とする。事例を用いて、介護過程の展開を行い、ケースカンファレンスの方法を学ぶ。自立支援や社会参加に向けた介護福祉利用者個別の介護過程の展開方法を習得する。	
	介護過程Ⅳ (知的・精神障害者、内部疾患者)	介護過程の理論と実習体験を関連付けながら、介護過程を展開する能力を養う。特にICFの概念を取り入れ目標指向介護を目指すとともに、在宅介護での事例を中心にその展開方法を学ぶ。いままでの介護過程の学びを深め実践的かつ自発的に学び、多様な支援について根拠に基づいて思考過程を養うことを目指す。	
	介護過程Ⅴ(在宅支援)	個人の生活をとりえ支援方法を考える介護過程について、今までの学習及び実習を基に理解を深めていく。利用者の生活及び年齢とともに心身に障害があることによる生活への影響をとりえ、生活支援のための介護過程を展開する。特に、内部障害・知的障害・精神障害のある方の介護過程の展開を、障害の理解とともに個人の生活や思いを重視して行うことができることを目的とする。	
	介護基礎演習	介護福祉利用者の理解と、様々な生活形態及びその生活を支える仕組みを、演習や3日間の介護基礎実習を通して学ぶ。実習前指導では、グループワークにより、発言・討議の方法を学ぶ。また、介護福祉利用者の生活の場で実習することの意味を理解し、実習でのマナーについて考える。実習後指導では、体験を通して介護福祉利用者の生活、介護福祉士の役割を考え、介護実習への準備とする。	一部集中/※実習
	介護実習指導Ⅰ	介護基礎演習での学びを確認、発展させ、「介護実習Ⅰ」に向けての事前指導や実習中、事後指導を行う。また、介護福祉士に必要な社会性や人間性を育成する場とし、介護福祉士を目指す個々の学生の自己覚知を促し「介護実習」に意欲的に取り組む姿勢を育成する。グループワークによる学習を通して、コミュニケーション能力及び学生自身の発言力を育成するとともに、課題に対する洞察力を高めることを目的とする。	
	介護実習指導Ⅱ	介護実習Ⅰのまとめ、介護実習Ⅱの事前・事後指導を行う。利用者を理解し介護過程の展開に必要な能力を養い、介護福祉士を目指すための個別ケア実践の学習を深める。あわせて福祉施設におけるレクリエーションの実践的な展開方法やグループ学習、ロールプレイを通し、より実践的な展開方法を学ぶ。また、事例学習により、より具体的な介護過程の展開方法を理解できることを目指す。	
	介護実習指導Ⅲ	介護実習の総まとめとして展開され、利用者の生活を包括的に捉える視点を学ぶ。介護福祉士に必要な社会性や人間性を学ぶ場とし、個々の学生の自己覚知を促し、訪問介護実習へ意欲的に取り組む姿勢を育成する。在宅での利用者の生活状況、介護サービスのあり方、在宅生活支援の特質を理解するとともに施設利用者支援との共通性や介護サービスにおける生活支援の意義を学ぶことを目指す。	

授 業 科 目 の 概 要			
(生涯スポーツ学部健康福祉学科)			
区 科 分 目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学 科 専 門 科 目	介護実習Ⅰ	介護福祉利用者の生活の場（高齢者施設など）において、4週間の集中実習を行う。介護を必要とする方の生活について理解を深め、介護福祉利用者の生活に沿った介護援助の実践を学ぶ。また、介護福祉利用者との人間的な深い関わりの中から、利用者の生活を尊重する基本的な姿勢を学ぶ。あわせて、生活体験を共にすることにより利用者の思いを感じとり、介護援助の在り方を考え、多様な生活形態と生活を支える仕組みを実践を通して学ぶ。	集中
	介護実習Ⅱ	介護実習Ⅰで習得した技術・知識・態度を基に、個別的なアセスメント・介護計画の作成・実施・評価を行い、個人に即した介護を実践する能力を養う。また、介護過程の実践を通して、利用者とともに生活環境を整えること、社会参加等、多角的な生活支援の在り方を学ぶ。利用者の生活を尊重し、利用者のニーズに即した援助方法を学ぶことにより、介護福祉の理念を考えることができる。	集中
	医療的ケアⅠ	介護福祉士が医療的ケアを行う意義と制度を理解し、安全に実施するための知識・技能の基本知識を身につける。 （オムニバス方式／全20回） （梶晴美／8回） 医行為に関する法律を理解したうえで、医療的ケアに伴う感染予防の知識、リスクマネジメントを正しく理解する。 （福田道代／12回） 利用者・家族の立場に立ち、医療的ケア実施の意義を理解する。医療的ケア実施に必要な制度、感染予防の知識を持ち、介護福祉士の専門性を活かした技術提供の基礎を身につける。安全な「たん吸引」実践に向けて、その技術や留意点を習得する。	オムニバス
	医療的ケアⅡ	医療的ケアⅠの確認とともに主に経管栄養法に関する消化器官の構造や働き、基本的しくみ、必要物品、方法、留意点、本人・家族への対応等の理解を深める。経管栄養法についての基本的知識や技術とともに関連する安全確認、感染予防、急変時の対応方法、医療職への報告等について学ぶ。実践的映像や教材を活用し、医療的ケア演習に向けて安全な技術や留意点を理解することを目指す。	
	医療的ケア演習	医療的ケアⅠ・Ⅱの確認とともに喀痰吸引、経管栄養法、救急蘇生法に関する基本的しくみ、必要物品、方法、留意点、安全確認、感染予防、連絡報告、事故発生時の対応等の理解とその実践を目指す。各演習はシュミレータを用いて効果的に一人で実施できることを目指し、さらに高齢者施設や障害者施設における医療的ケアの実践を見学実習を通して学ぶ。	